

2023年度 文学部聴講生

講義要項

(日本史学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2023.4 - 2024.3

# 目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	ページ番号
E2101	日本史学	日本史概説A（日本史学専攻）	西川 広平	前期	金	1時限	3
E2102	日本史学	日本史概説B（日本史学専攻）	山崎 圭	後期	金	1時限	5
E2103	日本史学	日本古代史A	服部 一隆	前期	水	4時限	7
E2104	日本史学	日本古代史B	白根 靖大	後期	金	5時限	10
E2105	日本史学	日本中世史A	坂田 聡	前期	火	3時限	12
E2106	日本史学	日本中世史B	坂田 聡	後期	火	3時限	15
E2107	日本史学	考古学A	小林 謙一	前期	月	1時限	18
E2108	日本史学	考古学B	小林 謙一	後期	月	1時限	21
E2109	日本史学	日本近世史A	山崎 圭	前期	水	1時限	23
E2110	日本史学	日本近世史B	山崎 圭	後期	水	1時限	25
E2111	日本史学	日本近現代史A	清水 善仁	前期	火	2時限	27
E2112	日本史学	日本近現代史B	清水 善仁	後期	火	2時限	29
E2113	日本史学	古文書学（1）	神崎 直美	前期	火	1時限	31
E2114	日本史学	古文書学（2）	小林 一岳	前期	月	2時限	33
E2115	日本史学	古文書学（3）	小林 一岳	後期	月	2時限	36
E2116	日本史学	日本文化史A	小野 一之	前期	水	2時限	39
E2117	日本史学	日本文化史B	神崎 直美	後期	火	1時限	41
E2118	日本史学	日本思想史A	宮田 純	前期	木	6時限	43
E2119	日本史学	日本思想史B	宮田 純	後期	木	6時限	45
E2120	日本史学	日本政治・法制史A	榎本 淳一	前期	金	5時限	47
E2121	日本史学	日本政治・法制史B	榎本 淳一	後期	金	5時限	49
E2122	日本史学	日本社会経済史A	落合 功	前期	木	4時限	51
E2123	日本史学	日本社会経済史B	落合 功	後期	木	4時限	53
E2124	日本史学	日本家族史A	坂田 聡	前期	火	2時限	55
E2125	日本史学	日本家族史B	坂田 聡	後期	火	2時限	58
E2126	日本史学	対外関係史A	米谷 均	前期	水	4時限	61
E2127	日本史学	対外関係史B	米谷 均	後期	水	4時限	64
E2128	日本史学	明治維新史A	宮間 純一	前期	水	5時限	67
E2129	日本史学	明治維新史B	宮間 純一	後期	水	5時限	70
E2130	日本史学	記録史料学A	清水 善仁	前期	水	1時限	72
E2131	日本史学	記録史料学B	清水 善仁	後期	水	1時限	75
E2132	日本史学	日本宗教史A	石津 裕之	前期	水	3時限	78
E2133	日本史学	日本宗教史B	繁田 真爾	後期	水	3時限	80
E2134	日本史学	考古学特講A	須田 英一	前期	火	5時限	82
E2135	日本史学	考古学特講B	黒尾 和久	後期	月	2時限	85

科目名: 日本史概説A(日本史学専攻)

担当教員: 西川 広平

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-JH1-F103

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:22 更新者: AA1732

更新日時: 2022-12-31 17:09:45

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

現在の歴史学研究において、日本史がどのように理解され、関心が持たれているのかを紹介する授業です。歴史上の事象を、現代社会の状況と比較して捉えることにより、新たな価値観を考えるきっかけとなる内容とします。対象範囲は、ヤマト王権成立期(4世紀)から江戸幕府成立期(17世紀初頭)までとなります(古代史～中世史)。

### 科目目的

古代史・中世史における歴史学研究の成果を通して、現代社会の常識を相対化し、歴史上の事項から新たな価値観を考えるために必要な知識の修得を目的とします。

### 到達目標

高等学校までに学んできた日本史の内容が、様々な見解がある中から、どのように成立してきたのかを理解するとともに、歴史学研究の成果から現代社会の課題を考える力を養うことをめざします。

### 授業計画と内容

第1回～第13回の授業は、manabaのコンテンツにレジュメをアップロードしますので、各自でダウンロードしてください。またmanabaのレポート機能等により各回の課題を提出してもらいます。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容の説明)、ヤマト王権の成立
- 第2回 律令国家への道のり
- 第3回 平安京と摂関政治
- 第4回 中世の萌芽 院政と荘園公領制
- 第5回 治承・寿永の内乱と承久の乱
- 第6回 執権政治の推移と得宗専制
- 第7回 モンゴル襲来と鎌倉幕府の滅亡
- 第8回 古代・中世の社会を考える
- 第9回 南北朝の内乱
- 第10回 室町将軍と守護・大名
- 第11回 列島東西における戦国争乱の始まり
- 第12回 戦国大名の展開
- 第13回 天下統一への推移 織豊政権と江戸幕府
- 第14回 総括・まとめ

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配布した資料等をもとに各自が授業内容を復習し、自分の関心や研究テーマを考えるきっかけとすること。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 30% 授業で学修した内容の理解、課題に関する考察力・表現力

レポート	0%
平常点	70% 出席状況、授業中の発言、各回の課題への解答
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの小テストやレポート機能を使用した双方向型授業の併用

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

博物館の学芸員として、史料の取扱や展示等の業務に16年間携わる。

### 実務経験に関連する授業内容

歴史学を社会に還元する目的と方法について指導する。

### テキスト・参考文献等

レジュメ等の配布資料で対応します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

各回の授業の冒頭では、各時代を代表する歴史上の人物を紹介します。また授業中に課題を提示し、個人やグループ単位で考えてもらう機会もあるため、普段から古代史・中世史に関心を払うことを期待します。

### 参考URL

### 備考

科目名: 日本史概説B(日本史学専攻)

担当教員: 山崎 圭

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-JH1-F104

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:22 更新者: AA0534

更新日時: 2023-01-06 21:59:14

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

日本史概説Bでは、主に近世史・近現代史を扱う。  
この講義では、時代順に話を進めていく形式をとるが、高校教科書のような政治史中心の通史的形式はとらず、各時代(時期)に特徴的なトピックをとりあげることで、その時代や社会の特徴を捉えていくことにしたい。また、途中で、特論(地域)として琉球・沖縄の近世から近代にかけての歴史も取り上げる。

### 科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識」を修得することを目的としている。

### 到達目標

日本の近世・近現代の歴史について、それぞれの時代や社会の特徴を理解できるようになること。

### 授業計画と内容

1. 後期の授業ガイダンス
2. 近世前期①近世の日本と朝鮮
3. 近世前期②ヨーロッパ勢力と日本
4. 近世中期 綱吉政権の歴史的 position
5. 近世後期①若者組と休日 of 社会史
6. 近世後期②小林一茶とその時代
7. 特論(地域)①琉球王国の時代
8. 特論(地域)②明治政府による琉球処分
9. 幕末維新における「公論」の形成
10. 明治期 自由民権運動
11. 大正期 大正デモクラシー
12. 戦時期 満蒙開拓団
13. 近世末～戦後 結婚・離婚・女性
14. 総括

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で使用するレジメを事前にアップするので、前もって読んでおくこと。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 到達度を確認するため、主に論述形式の試験を行う。
レポート	0%
平常点	50% 授業を聞いて理解した内容を、毎回、manabaの「小テスト」に記述してもらう。その点数の合計を平常点とする。ただし、出席率が70%に満たない者はE判定とする。

**成績評価の方法・基準(備考)**

**課題や試験のフィードバック方法**

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

**課題や試験のフィードバック方法(その他)**

**アクティブ・ラーニングの実施内容**

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

**アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)**

**授業におけるICTの活用方法**

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

**授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)**

**実務経験のある教員による授業**

- ✓ はい  
いいえ

**【実務経験有の場合】実務経験の内容**

**実務経験に関連する授業内容**

**テキスト・参考文献等**

- 授業時にその都度指示する。  
《参考文献》
- ・『日本近世の歴史』1～5 (吉川弘文館、2011～3年)。
  - ・『シリーズ日本近世史』1～5 (岩波新書、2015年)。
  - ・『日本近代の歴史』1～5 (吉川弘文館、2016～7年)。
  - ・『シリーズ日本近現代史』1～10 (岩波新書、2006～10年)。

**オフィスアワー**

**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

**科目名： 日本古代史A****担当教員： 服部 一隆**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：2・3年次担当

科目ナンバー：LE-JH2-F201

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:26 更新者：AC9565

更新日時：2023-01-09 22:08:16

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

古代は日本列島に初めてまとまった国ができた時代であり、都の華やかな文化は地域の生産によって支えられていた。そこで本授業では、古代の地域支配がどのように発展していったか、東国を例として学習していく。飛鳥時代から平安時代初期を中心とする。

**科目目的**

古代の地域支配がどのように発展していったかを理解し、各自で主体的に調査し、説明することができるようになる。知的基礎力（理解力・判断力）・社会人基礎力（問題把握力）の取得を目標とする。

**到達目標**

地域に即して主体的に日本古代史を理解すること。  
史料に基づいた具体的な日本古代史像を持てるようになること。  
古代史が現代に至る日本にどのような影響を与えたか考えること。

**授業計画と内容**

- 第1回 日本古代史と地域史
- 第2回 ヤマト王権と東国
- 第3回 大化改新と立評
- 第4回 律令制の形成と宮都
- 第5回 国郡制の成立
- 第6回 戸籍・計帳と租税
- 第7回 班田收授と条里
- 第8回 開発と初期荘園
- 第9回 東国の寺院と郡司
- 第10回 国衙財政の強化
- 第11回 山背遷都と格式
- 第12回 地方社会の変化
- 第13回 国郡制の変質
- 第14回 日本古代史における律令制の意義

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

日本古代史の概説書か高等学校の日本史教科書（古代史部分）を事前に読んでおくこと。  
授業内容への質問・意見をmanaba（アンケート）に提出すること。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%

レポート 50% 自分で調査し、参考文献を使用して書いているか。

平常点 50% 授業内容を踏まえた質問・意見を書いているか。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

授業後に毎回manabaのアンケートを記入し、欠席する場合は理由を連絡すること。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

各回の質問・意見については、manabaを使用して回答する。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

最近の学説によるため特定のテキストは使用しない。  
参考文献  
若狭 徹『前方後円墳と東国社会』吉川弘文館 9784642068185  
川尻秋生『坂東の成立』吉川弘文館 9784642068192  
荒井秀規『覚醒する〈関東〉』吉川弘文館 9784642068208  
大津透『律令制とはなにか』山川出版社 9784634546851

### オフィスアワー

### その他特記事項

知識は必要ないので、授業内容に興味を持って聴いてほしい。

### 参考URL

### 備考





科目名: 日本古代史B

担当教員: 白根 靖大

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 金5

配当年次: 2・3年次配当

科目ナンバー: LE-JH2-F202

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:26 更新者: AA0326

更新日時: 2023-01-08 18:11:31

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

平安時代中期の政治史を中心に、多角的な視点から当時の社会を見ていく。具体的には、摂関政治、地方政治、対外関係、武士の活動などを取り上げ、貴族と武士、中央と地方、立場の異なる諸勢力など、異なる切り口から平安中期について考える。

### 科目目的

一つの時代を異なる切り口から見て考えることを通して、時代の特質を的確にとらえるとともに、複眼的なものの見方・考え方を養う。

### 到達目標

異なる視点から見た歴史の諸側面を理解するとともに、多角的な歴史像を描いて自ら述べるができるようになる。

### 授業計画と内容

- 第1回 平安中期の歴史的位置
- 第2回 摂関体制の成立
- 第3回 摂関政治の確立
- 第4回 平安中期の政治構造
- 第5回 平安中期の貴族社会
- 第6回 平安中期の地方政治
- 第7回 平安中期の対外関係
- 第8回 武士の登場
- 第9回 平将門の乱
- 第10回 藤原純友の乱
- 第11回 平忠常の乱
- 第12回 前九年合戦
- 第13回 時代の転換
- 第14回 総括

※履修者の理解度や授業の進度に応じて、計画を変更する場合がある。

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

小テストを提出

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 持ち込み一切不可で論述式の試験。史実を正確に理解し、多角的な歴史像を描き、的確に論述できているかを評価する。
- レポート 0%
- 平常点 40% 毎授業後に小テストを実施し、授業内容の理解度を評価する。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

出席率が70%に満たない者、または無断欠席が3回連続した者は、成績評価の対象外とする。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

参考文献を授業中に紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

授業は板書を中心に進める。講義形式ではあるが「考える日本史」を目指す。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 日本中世史A****担当教員： 坂田 聡**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火3

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F203

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:27 更新者：gakubuadmin 更新日時：2023-01-25 13:57:09

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

1970年代における「社会史」の登場以降、半世紀近くに及ぶ日本中世史研究のあゆみをごく簡単に説明した上で、近年の日本中世史の分野の中から興味深いテーマ、具体的には①中世社会の習俗(特に自力、一揆、徳政)、②中世の気候変動・災害・自然環境、③中世日本の北と南という3つのテーマを取り上げて、詳しく論じたい。

**科目目的**

日本中世史の研究が、どのような研究テーマを取り上げ、どんな方法を用いて何をどこまで明らかにしてきたか、そこではいかなる議論がなされたかということについて考察を深める。

**到達目標**

以下の点について、知識・理解を深める。

- ① 社会史とはどのような学問か。
- ② 中世社会の習俗に関する議論の内容
- ③ 中世の気候変動と災害に関する議論の内容
- ④ 中世日本の北と南に関する議論の内容

**授業計画と内容**

対面形式で授業を行う。具体的には、講義を80分程度(前回授業の復讐、前回の小レポートの紹介とコメントの時間も含む)行ったのち、manabaのレポート機能を用いて講義内容についての感想・意見・質問を記す小レポートの時間を20分程度とする。講義を受講する際には、manabaのコンテンツにアップしたレジュメ及び資料プリントをダウンロードし、それらを参照しながら講義を聞いていただきたい。

- 第1回 プロローグー授業内容の説明と歴史2分法論についてー
- 第2回 社会史の登場と中世史研究
- 第3回 中世史研究のあゆみ
- 第4回 中世社会の習俗・その1(自力)
- 第5回 中世社会の習俗・その2(一揆)
- 第6回 中世社会の習俗・その3(徳政)
- 第7回 中世の気候変動、災害、自然環境・その1(フェアブリッジ曲線と気候変動・災害研究)
- 第8回 中世の気候変動、災害、自然環境・その2(暖かかった院政期、寒かった戦国期?)
- 第9回 中世の気候変動、災害、自然環境・その3(新しい気候変動研究)
- 第10回 中世日本の北と南・その1(中世日本の境界認識)
- 第11回 中世日本の北と南・その2(港湾都市「十三湊」と安藤氏)
- 第12回 中世日本の北と南・その3(道南12館とコシヤマインの戦い、そして上之国勝山館)
- 第13回 中世日本の北と南・その4(琉球と奄美)
- 第14回 まとめ・総括(講義内容の総復習)

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	授業内容に関わる文献を読んだ上で、論点を絞って考察します。①課題設定の適切さ、②研究史整理の妥当性、③論証的的確さ、④論理展開の明確性の4点を基準にして評価します。
平常点	30%	①授業への参加度、②小レポート（リアクションペーパー）の内容の2点から評価します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

レポートが不合格の受講生については、平常点の割合を高めて成績評価をします（レポート60%、平常点40%程度）。ただし、C評価以上にはしません。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- ・テキスト 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
- ・参考文献 木村茂光『中世社会の成り立ち』（日本中世の歴史1巻、吉川弘文館）  
※ 毎回のテーマごとの参考文献については、レジュメに記載する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

日本中世史Bもあわせて履修することが望ましい。高校時代に学んだ個々のできごとについて詳しく説明するわけではなく、あくまでも中世とはどんな時代だったかということに光を当てる講義である。日本史学専攻以外の学生の履修も歓迎する。

### 参考URL



**科目名： 日本中世史B****担当教員： 坂田 聡**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 火3

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F204

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:27 更新者：AA9820

更新日時：2022-12-30 20:13:12

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

- ① 中世史研究を刷新した研究者として石母田正、網野善彦、藤木久志の3名をとりあげ、各々の研究成果の特色や背景を明らかにする。
- ② 戦国時代の民衆の「したたかさ」や「たくましさ」を実証的に明らかにすることによって、高校教科書的な歴史理解に大幅な修正を迫る藤木久志の仕事について、⑦自力の村論、⑧刀狩り論、⑨雑兵論、⑩生命維持の習俗論という4つのテーマに分けて説明する。

**科目目的**

- ① 石母田、網野、藤木の研究の成果を学ぶことによって、中世史研究の問題関心の背後には、各々の研究者が生きた時代の社会が抱える様々な課題が見え隠れしていることに目を向ける。
- ② 藤木史学の神髄を学ぶことによって、高校教科書的な歴史像が唯一の絶対的な「正解」とはいえないことを明らかにするとともに、中世民衆史の可能性についても理解を深める。

**到達目標**

- ① 石母田、網野、藤木の研究の成果を理解することで、戦後の中世史研究の大きな流れをつかむ。
- ② 藤木の研究内容を学ぶことで、高校教科書に代表される通説が唯一絶対の「正解」ではないことを理解する。

**授業計画と内容**

対面形式で授業を行う。具体的には、講義を80分程度（前回授業の復讐、前回の小レポートの紹介とコメントの時間も含む）行ったのち、manabaのレポート機能を用いて講義内容についての感想・意見・質問を記す小レポートの時間を20分程度とる。講義を受講するに際しては、manabaのコンテンツにアップしたレジュメ及び資料プリントをダウンロードし、それらを参照しながら講義を聞いていただきたい。

第1回	授業方法と授業内容についてのガイダンス
第2回	中世史研究の枠組みを刷新した研究者・石母田正①
第3回	同上・石母田正②
第4回	同上・網野善彦①—網野の人と思想—
第5回	同上・網野善彦②—網野の研究の内容と評価—
第6回	同上・藤木久志
第7回	藤木久志の中世史研究・自力の村論①—紛争解決をめぐる習俗、一
第8回	同上・自力の村②—村の武力と自検断、村の自立の核となる施設—
第9回	同上・刀狩り論①—刀狩りに関する通説—
第10回	同上・刀狩り論②—刀狩りの真の狙い—
第11回	同上・雑兵論①—雑兵の実態と「乱取り」—
第12回	同上・雑兵論②—戦場の村の防衛策—
第13回	同上・生命維持の習俗論①—戦国社会理解の転換—
第14回	同上・生命維持の習俗論②—飢饉・戦乱と生命維持の習俗—

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	授業内容に関わる文献を読んだ上で、論点を絞って考察します。①課題設定の適切さ、②研究史整理の妥当性、③論証的的確さ、④論理展開の明確性の4点を基準にして評価します。
平常点	30%	①授業への参加度、②小レポート（リアクションペーパー）の内容の2点から評価します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

レポートが不合格の受講生については、平常点の割合を高めて成績評価をします（レポート60%、平常点40%程度）。ただし、C評価以上にはしません。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

- ・テキスト 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
- ・参考文献： 藤木久志 『戦国民衆像の虚実』（高志書院）  
藤木久志 『新版・雑兵たちの戦場』（朝日新聞出版）  
藤木久志 『飢餓と戦争の戦国を行く』（朝日新聞社）  
藤木久志 『刀狩り』（岩波新書）  
藤木久志 『戦国の作法』（平凡社ライブラリー）  
稲葉継陽・清水克行編 『村と民衆の戦国時代史—藤木久志の歴史学』（勉誠出版）

### オフィスアワー



**その他特記事項**

日本中世史Aもあわせて履修することが望ましい。日本史学専攻以外の学生の履修も歓迎する。

**参考URL**

**備考**

---

**科目名： 考古学A****担当教員： 小林 謙一**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 月1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-AR2-F205

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:27 更新者：AA0827

更新日時：2023-02-07 15:09:24

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本歴史を理解し、日本文化を考えていく上で、物質文化による再構成としての考古学的手法は重要である。考古学研究を目指すもの、歴史研究を目指すものにとって必要不可欠と言える考古学的研究法の基礎を理解してもらう目的で、概括的に講義する。同時に博物館学芸員を目指すものにとっても、博物館資料を理解し研究し修復・保管・演示などで扱っていくには、考古学的素養は不可欠であり、一般的なことから専門的なことまで講義したい。考古学Aでは、基礎的な考古学研究法の理解を得ることを目標とする。なお、具体的なケーススタディでは、日本先史時代を中心とする。

**科目目的**

この科目は、カリキュラム上の専攻科目群（選択）として位置付けられていることから、学習を通じて、歴史を学ぶ上で必要な考古学の基本的な考え方を、日本列島の先史時代を題材に習得することを目的とする。  
また、学生が学位授与の方針で示す「専門的知識」や「複眼的思考」を修得することを目的とする。

**到達目標**

基礎的な考古学研究法（型式論、層位論、編年）および考古学史について理解する。

**授業計画と内容**

- 【第1回】 考古学とはなにか・遺跡調査法・発掘、縄紋時代の理解を巡って
- 【第2回】 考古学研究法1 貝塚遺跡・岩陰遺跡
- 【第3回】 考古学研究法2 低湿地遺跡研究
- 【第4回】 考古学研究法3 遺物の種類・石器研究法
- 【第5回】 考古学研究法4 土器研究法 層位と型式（教科書1章）
- 【第6回】 考古学研究法5 型式学研究・土器型式論、縄紋土器研究の略史
- 【第7回】 考古学史1 明治・大正期の人類学研究と考古学
- 【第8回】 考古学史2 戦前・戦後期の土器編年研究史（山内清男）
- 【第9回】 考古学史3 縄紋集落研究史（和島集落論・水野集落論）
- 【第10回】 日本考古学の諸問題 縄紋土器編年と年代研究（教科書2章）
- 【第11回】 日本考古学の諸問題 縄紋中期環状集落論・竪穴住居ライフサイクル論
- 【第12回】 日本考古学の諸問題 縄紋中期大橋集落フェイズ論
- 【第13回】 日本考古学の諸問題 年代測定から見た縄紋集落（教科書3章）
- 【第14回】 日本考古学の諸問題 年代測定から見た縄紋文化の動態（教科書4章）

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

プライベートな時間に、近隣の博物館・資料館に足を運び、興味ある特別展・企画展の見学に努めてほしい。また、考古学・文化財などに関する新聞・雑誌記事やテレビのニュース・特集番組などにも接し、講義内容の理解度を高めてほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	60% 定期試験は実施しない。数回の課題レポートを課す。その内容を基準とする。
平常点	40% 授業の受講態度の状況と、毎回の受講後の小テストの内容を基準とする。
その他	0%

## 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件: 課題レポートを提出していない受講者は、評価の対象外とするので、十分に注意すること。

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

発掘調査担当者として発掘調査・整理作業に従事した経験がある。

## 実務経験に関連する授業内容

発掘調査の方法を紹介するほか、考古学・埋蔵文化財に関する実践、文化財行政に関する運営と課題などについても講義において触れる。

## テキスト・参考文献等

(主要参考文献) 『縄紋社会研究の新視点』(小林謙一著、六一書房、2019年第2版) ISBN978-4-86445-012-6  
\*レポートなどで利用することがあります。

その他参考文献  
小林達雄編『考古学ハンドブック』新書館、2007年(ハンドブックシリーズ) ISBN978-4-403-25088-0  
鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会、1988年 ISBN4-13-022051-9  
鈴木公雄『読む・知る・愉しむ 考古学がわかる事典』日本実業出版社、1997年 ISBN4-534-02618-8  
鈴木公雄『考古学はどんな学問か』東京大学出版会、2005年 ISBN4-13-023052-2  
チャイルド、V. G 著、近藤義郎訳『考古学の方法』河出書房新社、1981年  
ラウス、アーヴィング著、鈴木公雄訳『先史学の基礎理論』雄山閣、1974年

## オフィスアワー

## その他特記事項

後期・考古学Bを続けて履修することが望ましい。

**参考URL**

<http://www.kkenichi001k.r.chuo-u.ac.jp/>

**備考**

---

**科目名： 考古学B**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 月1

**担当教員： 小林 謙一**

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-AR2-F206

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:27 更新者：gakubuadmin 更新日時：2023-02-03 18:35:24

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本歴史を構築し、日本文化を考えていくのに物質文化による再構成としての考古学的手法は重要である。考古学研究を目指すもの、歴史研究を目指すものにとって必要不可欠と言える考古学的研究法の基礎を理解してもらう目的で、学史を含め概括的に講義する。同時に博物館学芸員を目指すものにとっても、博物館資料を理解し研究し修復・保管・演示などで扱っていくには、考古学的素養は不可欠であり、一般的なことから専門的なことまで講義したい。なお、具体的なケーススタディでは、縄紋時代など日本先史時代を中心とするが必要に応じて対象とする範囲を広げる。

**科目目的**

考古学の概要を理解して貰う。

**到達目標**

考古学の基本的な方法論を理解する。

**授業計画と内容**

- 【第1回】 考古学研究法a 考古学と自然科学（産地推定など）
- 【第2回】 考古学研究法b 炭素14年代測定原理（教科書2～5講）
- 【第3回】 考古学研究法c 土器型式編年研究・属性研究, 早期～前期の土器（教科書6講）
- 【第4回】 考古文化の研究 縄紋中期勝坂文化と阿玉台文化（教科書7講）
- 【第5回】 考古文化の研究 縄紋中期加曾利E式・曾利式・大木式（教科書7講）
- 【第6回】 考古文化の研究 縄紋後期・晩期の土器文化（教科書8・9講）
- 【第7回】 考古文化の研究 縄紋はいつから？（教科書10講）
- 【第8回】 考古文化の研究 初現期土器と東アジア（教科書10講）
- 【第9回】 考古文化の研究 縄紋時代の精神文化 盛土遺構・石棒・敷石住居（教科書11・12講）
- 【第10回】 考古文化の研究 縄紋の終末から弥生文化の成立（教科書13講）
- 【第11回】 考古文化の研究 弥生から古墳へ
- 【第12回】 考古文化の研究 古代国家形成過程と邪馬台国問題
- 【第13回】 現代と日本考古学 前中期旧石器ねつ造事件と考古学
- 【第14回】 現代と日本考古学 災害と考古学

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	レポート内容
平常点	40%	小テストなど
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

発掘調査担当者として発掘調査・整理作業に従事した経験がある。

## 実務経験に関連する授業内容

発掘調査の方法を紹介するほか、考古学・埋蔵文化財に関する実践、文化財行政に関する運営と課題などについても講義において触れる。

## テキスト・参考文献等

(参考書)『縄紋時代の実年代講座』(小林謙一著、同成社, 2019) (講義での参照のほか、レポートなどで用いる)  
『縄紋社会研究の新視点』(六一書房)も参考文献として利用することが望ましい。

## オフィスアワー

## その他特記事項

前期・考古学Aを履修していることが望ましい。

## 参考URL

<http://www.kkenichi001k.r.chuo-u.ac.jp/>

## 備考

科目名: 日本近世史A

担当教員: 山崎 圭

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 水1

配当年次: 2・3年次担当

科目ナンバー: LE-JH2-F207

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:27 更新者: AA0534

更新日時: 2023-01-09 13:49:53

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

日本近世史研究の中で、特に村・地域社会に関する研究の大まかな動向について説明し、現段階での研究の到達点を確認する。なお、この講義では、論拠となる史料を毎回提示して、説明を加えながら論を進めていく。毎回じっくり取り組めば、近世史料の基本的な読み方にも習熟することができるはずである。

### 科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す、専門的学識を学生が身につけることを目的とする。

### 到達目標

日本近世史研究の、特に村・地域社会に関する研究の大まかな動向について理解し、現段階での研究の到達点について説明できること。

### 授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 小百姓の村の成立①小領主の支配
3. 小百姓の村の成立②小農共同体の形成
4. 幕藩領主と百姓の関係①「御救」の論理
5. 幕藩領主と百姓の関係②「御百姓」意識
6. 近世の身分①身分集団
7. 近世の身分②身分制社会
8. 村落共同体論①村の再評価、無年季的質地請戻し慣行
9. 村落共同体論②幕府法と村法
10. 近世の地主小作関係と村
11. 幕府領支配のしくみ①簡素な支配機構
12. 幕府領支配のしくみ②代官所役人
13. 近世地域社会論
14. 総括

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で使用するレジメを前もってアップするので事前に読んでおくこと。授業後には、授業内容を復習すると同時に、できるだけ授業で取り上げた論文や書籍を自ら読んでみる。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- |      |   |
|------|---|
| 中間試験 | 0%  |
| 期末試験 | 50% 到達度を確認するため主に論述形式の試験を行う。                             |
| レポート | 0%  |
| 平常点  | 50% 授業を聞いて理解した内容を、毎回、manabaの「小テスト」に記述してもらう。その点数の合計を平常点と |

する。ただし、出席率が70%に満たない者はE判定とする。

その他 0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

《参考文献》  
山崎圭『近世幕領地域社会の研究』(校倉書房、2005年)。

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考



**科目名： 日本近世史B****担当教員： 山崎 圭**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：2・3年次担当

科目ナンバー：LE-JH2-F208

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:28 更新者：AA0534

更新日時：2023-01-06 22:05:01

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現在、私たちは地震、台風等、様々な災害に悩まされているが、近世においても人びとは多くの災害に直面していた。この授業では、この時代に生きた人びとがどのように災害に向き合ったかを検討することを通じて、近世社会のあり方について考える。なお、特論として関東地域の近世史についても取り上げる。

**科目目的**

この科目は、学位授与の方針で示す専門的学識を学生が身につけることを目的とする。

**到達目標**

災害と社会の関わりについて歴史的に考えることができるようになること。

**授業計画と内容**

1. ガイダンス
2. 環境と開発
3. 開発と災害
4. 富士山噴火
5. 浅間山噴火①被害と政策
6. 浅間山噴火②地域の取り組み
7. 享保飢饉・天明飢饉
8. 【特論1】近世の関東地域①支配の特質と地域社会
9. 【特論2】近世の関東地域②江戸地廻り経済圏の形成
10. 天保飢饉
11. 慶応期凶作
12. 千曲川洪水と地域社会①開発と災害
13. 千曲川洪水と地域社会②対策の取り組み
14. まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業で使用するレジメを前もってアップするので事前に読んでおくこと。授業後には、授業内容を復習すると同時に、できるだけ授業で取り上げた論文や書籍を自ら読んでみることを。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	50% 到達度を確保するため主に論述形式の試験を行う。
レポート	0%
平常点	50% 授業を聞いて理解した内容を、毎回、manabaの「小テスト」に記述してもらう。その点数の合計を平常点とする。ただし、出席率が70%に満たない者はE判定とする。
その他	0%

**成績評価の方法・基準(備考)**

**課題や試験のフィードバック方法**

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

**課題や試験のフィードバック方法(その他)**

**アクティブ・ラーニングの実施内容**

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

**アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)**

**授業におけるICTの活用方法**

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

**授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)**

**実務経験のある教員による授業**

- ✓ はい  
いいえ

**【実務経験有の場合】実務経験の内容**

**実務経験に関連する授業内容**

**テキスト・参考文献等**

参考文献については授業中にその都度指示する。

**オフィスアワー**

**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

**科目名： 日本近現代史A****担当教員： 清水 善仁**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-JH2-F209

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:28 更新者：AA2036

更新日時：2022-12-27 17:13:18

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本史学のみならず歴史学研究において、これまでなされてきた研究の歩み（研究史）を正確に把握し、その内容を理解することは、当該研究の到達点や課題、あるいは分析手法等を知る意味で最も基礎的な作業であると同時に、これから研究を進めていくうえで不可欠なことです。

本講義では、日本近現代史の主要な事象をめぐる研究史の論点について、政治・経済・社会・思想・文化といった多角的な視点からこれまでの研究動向を整理し、現状と課題および展望について概説します。

**科目目的**

これまでの研究の歩みを学ぶことを通じて、日本近現代史への理解を深めることはもとより、歴史学的な思考と方法のための専門的な学識を身に付けることを目的とします。

**到達目標**

本講義で学んだ日本近現代史およびその研究史に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の研究につなげて考察し、より複眼的な思考ができるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方について
- 第2回 戦後歴史学と日本近現代史研究
- 第3回 明治維新①：幕末期
- 第4回 明治維新②：明治初期
- 第5回 自由民権運動
- 第6回 大日本帝国憲法
- 第7回 日清・日露戦争
- 第8回 大正デモクラシー
- 第9回 第一次世界大戦
- 第10回 昭和初期の政治史
- 第11回 アジア・太平洋戦争
- 第12回 戦後の政治と社会
- 第13回 日本近現代史研究と史料
- 第14回 総括・まとめ：日本近現代史研究のこれから

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回の講義で紹介する参考文献にあたり、予習・復習に努めてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% 講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
- レポート 0%

- 平常点 30% リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
- その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席（リアクションペーパーの提出）が全開講回数の半数に満たない者はE判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回板書と資料の配布により講義を進めます。参考文献はそのつど紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名： 日本近現代史B

担当教員： 清水 善仁

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 火2

配当年次： 2・3年次配当

科目ナンバー： LE-JH2-F210

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:28 更新者： AA2036

更新日時： 2022-12-27 17:18:50

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、日本近現代史における個別の事象から一つを取り上げ、それについての通時的な概説をおこないます。今年度も昨年度に引き続き「公害からみた日本近現代史」と題して、近現代日本の代表的な社会問題である公害を取り上げます。公害と聞くと、これまで中学校や高等学校で習った「四大公害」等の戦後の公害を思い浮かべる人が多いと思いますが、実は公害は戦前から日本各地で発生しており、多くの被害をもたらした点で近現代を通じた大きな社会問題でした。日本の近代化あるいは戦後の高度経済成長の影で生じた公害の歴史を明らかにすることは、近現代の日本社会の諸相を理解するうえで重要な意義があります。そこで、講義では戦前・戦後の公害の実態について具体例を挙げつつ紹介し、それが当時の政治・経済や人々の生活に及ぼした影響を考察します。また、その際には、行政・企業・住民といったそれぞれの立場もふまえながら、近現代日本の公害の歴史を多角的な視点から検討していきます。

**科目目的**

公害の歴史を学ぶことにより、それが現在につながる問題でもあることを認識するとともに、近現代日本の政治・社会構造とその変容に関する専門的な知識を修得することを目的とします。

**到達目標**

本講義を通じて、歴史学研究の多様なアプローチの方法を知り、史料に基づいた客観的な理解・分析能力のための専門的学識を修得することを目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方について
- 第2回 公害の歴史を学ぶ際の視点
- 第3回 鉱山と公害
- 第4回 都市における公害の発生
- 第5回 都市における公害の拡大と多様化
- 第6回 公害概念の形成
- 第7回 戦後復興期の公害
- 第8回 高度経済成長期の公害①：公害の全国化
- 第9回 高度経済成長期の公害②：公害反対運動
- 第10回 公害対策の展開①：公害対策基本法
- 第11回 公害対策の展開②：公害国会と環境庁の設置
- 第12回 現代の公害
- 第13回 公害の歴史を伝える取り組み
- 第14回 総括・まとめ：公害の歴史と現代

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回の講義で紹介する参考文献にあたり、予習・復習に努めてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	70%	講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
レポート	0%	
平常点	30%	リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席（リアクションペーパーの提出）が全開講回数の半数に満たない者はE判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回板書と資料の配布により講義を進めます。参考文献はそのつど紹介しますが、講義全般にかかわるものとして以下の2冊を挙げておきます。

小田康徳編『公害・環境問題史を学ぶ人のために』（世界思想社、2008年）  
安藤聡彦・林美帆・丹野春香編著『公害スタディーズ』（ころから、2021年）

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： 古文書学(1)****担当教員： 神崎 直美**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-PL2-F211

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:28 更新者：AB4011

更新日時：2022-12-27 19:21:38

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

近世史研究の基礎力を養うことを目的といたしますので、当講義では近世の古文書を広義な定義でとらえます。対象としては、いわゆる古文書が主ですが、書籍や刷り物、ビジュアル史料についても扱います。近世古文書の概要を理解していただくから、その多彩な世界について、それぞれ説明します。講義に際しては、近世の古文書の原物を持参しますので、受講生に回覧して説明する時間も予定しています。

**科目目的**

近世史研究に不可欠である近世の古文書について、その体系を知識として学び、さらに教室で原物を見る・手に取る体験をすることにより、言葉を越えた真の理解をすることが目的です。

**到達目標**

受講生各自が知識として多彩な近世の古文書について語る事が可能となり、さらに自らが近世史研究を行う際に、テーマにした古文書の原物が所蔵されている史料収蔵機関を探ことができ、積極的に原物を閲覧することの大切さを認識し、かつ行動できることが目標です。

**授業計画と内容**

- ①授業の説明
- ②近世の古文書…特徴を中心として
- ③古文書の体裁
- ④近世古文書の分類と作成主体
- ⑤幕府文書
- ⑥藩政文書…著名な藩政文書群
- ⑦藩政文書…その種類
- ⑧大名家文書…私的な古文書
- ⑨地方文書…保存の歴史、及びその種類
- ⑩地方文書…続・その種類
- ⑪寺社文書・公家文書、その他
- ⑫書籍…体裁、及びその種類
- ⑬ビジュアル史料
- ⑭まとめ…近世の古文書の活用について

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

近世古文書に関する参考図書類を、授業の際に教室に持参して紹介・回覧します。それらの図書については、必ず各自で授業後にも充分閲覧して、使いこなせるようにしてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 中間試験 | 0%                              |
| 期末試験 | 60% 授業で説明した事項を確実に理解していることを問います。 |
| レポート | 0%                              |

平常点	40%	リアクションペーパーを折々に実施します。授業で修得した知識・体験を基に、各自が考察したことを問います。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

史料収蔵施設で実習をするかわりに、担当教員が毎時間、古文書の原物を持参して、説明・回覧します。受講生はそれを実際に手に取ることにより、様々な近世の古文書を理解していただきます。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

自主学習支援(授業外学修)として、manabaを使い当科目の知識を深めることができる。

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

大和市文化財審議委員会委員(2012年8月～現在)

### 実務経験に関連する授業内容

近世古文書の保存に関する現状や実務についても、授業で具体例としてふれます。

### テキスト・参考文献等

特になし。プリントを配布します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

毎時間、古文書を手に取る体験は貴重です。説明のポイントを理解して、原物を手にしてよく眺めてください。なお、連絡事項は授業の際に教室でお伝えしますが、緊急事項はmanabaで連絡します。

### 参考URL

### 備考



科目名: 古文書学(2)

担当教員: 小林 一岳

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2・3年次配当

科目ナンバー: LE-PL2-F212

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:28 更新者: AD1158

更新日時: 2023-01-07 09:51:28

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

歴史を研究するためには、史料が必要であることはもちろんです。歴史史料には文字に書かれた文字史料や、考古史料や絵画史料などの非文字史料がありますが、文書は文字史料の中でも多くの情報を得ることができる重要なものになります。

しかし、文書を歴史史料として扱うためには、その様式や機能などの基礎的な知識が必要です。そのような、文書についての学問を古文書学といいます。この授業は、古文書の基礎知識を習得するとともに、基本的な中世文書を読み解きながら、中世の古文書についての概要を把握するためのものです。文書の様式や機能を通じて、古文書の背景にある中世の国家や社会のあり方などについて学ぶこととなります。

古文書学(2)では、朝廷や鎌倉幕府・室町幕府、戦国大名が出した発給文書を中心に、中世国家のあり方や、国家からみた中世社会のあり方について学びます。

なお、本講義は古文書の「くずし字」の読解については一部扱いますが、それを主な目的とするものではないので、その旨を理解してください。

**科目目的**

文学部の日本史関係科目の目的である、「日本の歴史に関する深い知識を身に付けることができる。及び様々な事柄に対する高い情報収集力・分析力を養うことができる。」ということに関連する科目です。

古文書から得られる情報をその内容だけではなく、様式や機能も含めて収集・分析し、深い歴史研究につなげていく能力を育成することを目的とします。

**到達目標**

古文書の様式や機能について基礎的な知識を獲得し、説明することができる。古文書の様式・機能についての学びを前提として中世の国家と社会の関係を理解して説明することができる。その際、鎌倉幕府と室町幕府の違いやその特質、戦国大名権力の特質について、古文書を通して説明できる。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンスー歴史資料の中の古文書
- 第2回 古文書の基礎知識ー変体漢文・くずし字・花押・料紙等
- 第3回 古文書の作成と伝来ー案文と正文・発給と受給・伝来と偽文書
- 第4回 朝廷・貴族の文書ー宣旨・官宣旨・下文
- 第5回 天皇・院の文書ー綸旨・令旨・院宣
- 第6回 鎌倉幕府の文書① 下文・御教書
- 第7回 鎌倉幕府の文書② 奉書・下知状・裁許状
- 第8回 鎌倉幕府の文書③ 訴状・問状・陳状・召文
- 第9回 室町幕府の文書① 下文・下知状・御判御教書
- 第10回 室町幕府の文書② 戦争の文書(軍勢催促状・軍忠状・着到状・感状)
- 第11回 室町幕府の文書③ 奉書・遵行状
- 第12回 戦国大名の文書① 直状・書下・判物
- 第13回 戦国大名の文書② 書状・印判状
- 第14回 授業のまとめ・レポート

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業内容に関する簡単な課題・レポートを提出する

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	100% 授業内容を理解した上で、説明できるかどうかを評価する。
平常点	0%
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

参考文献

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局2003年
- ・飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』吉川弘文館2017年
- ・久留島典子・五味文彦『史料を読み解く1 中世文書の流れ』山川出版社2008年
- ・苅米一志『日本史を学ぶための 古文書・古記録訓読法』吉川弘文館2019年
- ・小島道裕『中世の古文書入門』河出書房新社2019年

### オフィスアワー

### その他特記事項

参考URL

備考

---

科目名： 古文書学(3)

担当教員： 小林 一岳

履修年度： 2023 学期： 後期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 2・3年次配当

科目ナンバー： LE-PL2-F213

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:29 更新者： AD1158

更新日時： 2023-01-07 09:54:43

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

歴史を研究するためには、史料が必要であることはもちろんです。歴史史料には文字に書かれた文字史料や、考古史料や絵画史料などの非文字史料がありますが、文書は文字史料の中でも多くの情報を得ることができる重要なものになります。

しかし、文書を歴史史料として扱うためには、その様式や機能などの基礎的な知識が必要です。そのような、文書についての学問を古文書学といいます。この授業は、古文書の基礎的知識を習得するとともに、基本的な中世文書を読み解きながら、中世の古文書についての概要を把握するためのものです。文書の様式や機能を通じて、古文書の背景にある中世の国家や社会のあり方などについて学ぶこととなります。

古文書学(3)では、前期の古文書学(2)で主に扱った鎌倉幕府や室町幕府、戦国大名等の国家や権力が発給した文書に対して、主に中世の地域社会に関連する古文書を扱うことになります。

具体的には寺社に残された文書や武士に関する文書、荘園支配の文書や村関係の文書になります。それらの文書を通して中世社会の特質について学ぶことにします。

なお、本講義は古文書の「くずし字」の読解については一部扱いますが、それを主な目的とするものではないので、その旨を理解してください。

**科目目的**

文学部の日本史関係科目の目的である、「日本の歴史に関する深い知識を身に付けることができる。及び様々な事柄に対する高い情報収集力・分析力を養うことができる。」ということに関連する科目です。

古文書から得られる情報をその内容だけではなく、様式や機能も含めて収集・分析し、深い歴史研究につなげていく能力を育成することを目的とします。

**到達目標**

古文書の様式や機能について基礎的な知識を獲得し、説明することができる。古文書の様式・機能についての学びを前提として、中世の国家と社会の関係を理解して説明することができる。その際特に、寺社に残される文書や武士に関する文書、荘園支配のための文書や村関係の文書などを通して、中世社会の特質について理解し、古文書を通して説明できる。

**授業計画と内容**

- 第1回 地域社会の中の古文書
- 第2回 寺社の文書① 起請文
- 第3回 寺社の文書② 寄進状
- 第4回 武士の文書① 讓状
- 第5回 武士の文書② 置文と一門評定
- 第6回 武士の文書③ 書状(高幡不動胎内文書)
- 第7回 武士の文書④ 一揆契状
- 第8回 荘園の文書① 荘園支配の文書(検注帳・算用状・結解状・請文)
- 第9回 荘園の文書② 荘官関係文書
- 第10回 荘園の文書③ 荘家の一揆(沙汰人百姓等申状)
- 第11回 村と一揆の文書① 村の紛争文書
- 第12回 村と一揆の文書② 村掟
- 第13回 村と一揆の文書③ 惣国一揆掟
- 第14回 授業のまとめ(偽文書)・レポート

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業内容に関する簡単な課題・レポートを提出する。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	100% 授業内容を理解した上で、説明できるかどうかを評価する。
平常点	0%
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

参考文献

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局2003年
- ・飯倉晴武『古文書入門ハンドブック』吉川弘文館2017年
- ・久留島典子・五味文彦『史料を読み解く1 中世文書の流れ』2008年
- ・荻米一志『日本史を学ぶための 古文書・古記録訓読法』吉川弘文館2019年
- ・小島道裕『中世の古文書入門』河出書房新社2019年

### オフィスアワー

### その他特記事項

参考URL

備考

---

**科目名： 日本文化史A**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水2

**担当教員： 小野 一之**

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JH3-F401

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:29 更新者：AD1156

更新日時：2023-01-03 18:05:00

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本の古代から中世に至る文化の展開を、個別の事象や地域史からの視点でとりあげ、文化史の流れを考えていきます。文献史料を中心にしながらも、パワポで図版を多用し美術作品や史跡にもあたりながら講義します。毎回の授業終了後に、感想・意見・質問等を記入したリアクションペーパーを提出してもらいます。

**科目目的**

文化史を歴史のわき役ではなく、政治・経済・社会の動きと連動した事象として捉え、総合的に歴史を俯瞰していけるようになることを目的とします。

**到達目標**

日本文化史を文献史料と資料・史跡に基づいて考え、今日的な課題に対しても考えが持てるようになることを目標とします。また今後の文化事業・文化財保全業務・博物館事業にあたる際の基礎学習になることも目標とします。

**授業計画と内容**

- ① はじめにー日本文化史の方法
- ② 祭礼ー基層文化を探る
- ③ 聖徳太子ーもう一つの日本文化史
- ④ 都城ー都市文化史の展開
- ⑤ 寺院ー飛鳥寺と元興寺、古代から中世へ
- ⑥ 仏像ー興福寺・戦う寺の仏教文化
- ⑦ 庭園ー宮殿の庭・寺院の庭
- ⑧ 墓ー天皇陵古墳と中世民衆墓
- ⑨ 旅ー旅する官人・僧・民衆
- ⑩ 多摩川ー地域文化史①
- ⑪ 東山道と鎌倉街道ー地域文化史②
- ⑫ 万葉集東歌と防人歌ー地域文化史③
- ⑬ 共生の文化史ー縄文・渡来人・蝦夷
- ⑭ まとめー古代・中世の文化形成

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回、関連する図書、博物館・美術館、寺社・史跡などを随時紹介しますので、関心のあるテーマについて理解を深めてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 課題に対する理解とオリジナリティを評価します。
平常点	60% リアクションペーパー等による講義に対する参加度を評価します。

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

府中市郷土の森博物館で学芸員・館長(2021年度まで。現在は府中市・入間市の文化財保護審議会委員などを兼務)として、博物館運営・文化財活用・地域振興などに携わってきました。

### 実務経験に関連する授業内容

地域の文化財資料の調査や保全・活用の経験から文化史の視点を提示します。

### テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しませんが、毎回、参考文献を紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



科目名: 日本文化史B

担当教員: 神崎 直美

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 火1

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-JH3-F402

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:29 更新者: gakubuadmin 更新日時: 2023-01-25 14:29:00

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

幕末の大老として名高い井伊直弼の姉であり、延岡藩内藤家の奥方となった充姫—後の充真院—は、文才・画才に恵まれ、著作物を執筆した稀な大名夫人です。充真院は信仰心が厚く、先祖に対する崇敬の思いも深く、菩提寺に参詣したり、転居のための旅(江戸・延岡)の途中で、数多くの寺社に参詣しました。充真院を具体的事例として、大名夫人の寺社参詣について理解を深めます。

なお、充真院が訪れた寺社について、教員が現地を訪れて撮影した写真データを映写する時間を各寺社参詣の最後の回に設定し、仮想寺社参詣を体験していただきます。

**科目目的**

近世史研究において、未だ実証的な研究が乏しく不明な点が多い大名夫人について、当科目では寺社参詣の具体例を紀行文や藩政文書から明らかにして、近世女性史・文化史の知識を習得することが目的です。さらには女性史・文化史研究の方法論を考察することも目的です。

**到達目標**

近世の女性史・文化史の新知識を修得すること、史料の探し方や方法論を知り、考察して、自らの研究の際に応用できることが目標です。さらに主人公である充真院の人物像を寺社参詣の実態・姿勢から知り、前向きな生き方をはじめ、各自の人生の糧にすることも目標です。

**授業計画と内容**

- 第1回 大名夫人と寺社参詣、及び、充真院の人生の概略①
- 第2回 充真院の人生の概略②
- 第3回 相模国鎌倉・光明寺①…菩提寺の光明寺
- 第4回 " ②…旅の準備
- 第5回 " ③…鎌倉での日々 ※仮想光明寺参詣
- 第6回 三河国大樹寺・西光寺①…三河国と内藤家の所縁
- 第7回 " ②…大樹寺と信楽院
- 第8回 " ③…西光寺と内藤家墓所 ※仮想大樹寺・西光寺参詣
- 第9回 大坂寺社参詣①…高津宮・新清水寺・安居天神
- 第10回 " ②…四天王寺・住吉大社 ※仮想大坂寺社参詣
- 第11回 讃岐国金毘羅①…金毘羅信仰と大名家
- 第12回 " ②…初めての参詣
- 第13回 " ③…2度目の参詣 ※仮想金毘羅参詣
- 第14回 寺社参詣を通して明らかとなった充真院の人物像

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% 授業で説明した内容を正しく理解しているかを判定します。

レポート 0%

平常点 50% 授業の冒頭に、前回の復習としてQ&Aを実施します。積極的に発言してください。学期中に3,4回のグループディスカッション、及びリアクションペーパーを実施しますので、問題意識を持って取り組んでください。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

学期中に3,4回、グループディスカッションを実施します。

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

自主学習支援(授業外学修)として、manabaを使い当科目の知識を深めることができます。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストを用いて授業を進めます。テキストは下記の通りです。  
神崎直美著『幕末大名夫人の寺社参詣一日向国延岡藩内藤充真院・統一』岩田書院 2021年4月刊行  
補足プリントも配布します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

テキストは必ず講義の際に必携してください。連絡事項は授業教室でお伝えしますが、緊急事項についてはmanabaで連絡します。

### 参考URL

### 備考

科目名： 日本思想史A

担当教員： 宮田 純

履修年度： 2023 学期： 前期

開講曜日時限： 木6

配当年次： 3・4年次配当

科目ナンバー： LE-JH3-F403

登録者： DA1410admi 登録日時： 2022-10-28 09:41:29 更新者： AD1514

更新日時： 2023-02-05 23:42:01

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

テーマ：歴史書を基礎資料としてとりあげながら、古代～近代における諸相との相関関係を整理し、ひいては、日本思想史の通史的な理解を深化させる。歴史書をとりまく時代背景やその作者、さらにはその影響などについて触れた内容を各回ごとに伝えてゆく。古文書を読む機会が多い授業となります。

授業形態：講義形式を採用するが、ディスカッションの時間も確保したい。

### 科目目的

思想と時代背景の相関関係についての知見を、歴史学の素養ならびに歴史書についての理解に基づきながら深化させる。

### 到達目標

受講生が思想史の理解に基づきながら、日々の反応力や判断力に応用できるようにする。

### 授業計画と内容

概略：前期の授業は日本思想史の通史的理解を深める内容となります。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本思想史の通史的理解について
- 第3回 古代社会の歴史書
- 第4回 中世社会の歴史書
- 第5回 戦国時代と歴史書
- 第6回 中間の小括
- 第7回 織豊政権期と歴史書
- 第8回 近世前期の歴史書
- 第9回 近世中期の歴史書
- 第10回 近世後期の歴史書
- 第11回 近代の歴史書
- 第12回 日本思想史の現代性
- 第13回 日本思想史を考える
- 第14回 総括・まとめ—日本思想史における歴史書の意義—

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% ペーパーの使用による試験を実施。
- レポート 0%

平常点 30% リアクションペーパーの作成。  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席の場合は単位認定が不可能となります。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストとしてレジュメを配布します。参考書は適宜、紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

講義中は私語厳禁。先々の社会人としての行動を見ずえて、さまざまなことに配慮できる姿勢を強く意識してください。  
★要注意★歴史的な文献資料(古文書・翻刻版・くずし字など)を多く読む機会となります。担当の割り当てもあるので、日本史・思想史に関する専門的知識を知的基盤(史学科の3年生以上の修学水準がのぞましい)として準備しておく必要があります。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 日本思想史B****担当教員： 宮田 純**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 木6

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F404

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:29 更新者：AD1514

更新日時：2023-02-05 23:48:02

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

テーマ：近世日本における海外情報に関する資料をとりあげながら、近世社会における諸相との相関関係を整理し、ひいては、近世思想の通史的な理解を深化させる。海外情報やそれを取りまく時代背景や影響などについて触れた内容を各回ごとに伝えてゆく。古文書を多く読む授業となります。

授業形態：講義形式を採用するが、ディスカッションの時間も確保したい。

**科目目的**

思想と時代背景の相関関係についての知見を、歴史学の素養ならびに近世における海外情報についての理解に基づきながら深化させる。

**到達目標**

受講生が近世思想の理解に基づきながら、日々の反応力や判断力を応用できるようにする。

**授業計画と内容**

概略：後期の授業は近世思想の通史的な理解を深める内容となります。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際社会の中の近世日本
- 第3回 織豊政権と海外情報
- 第4回 安土桃山文化と海外情報
- 第5回 徳川幕藩体制初期と海外情報
- 第6回 中間の小括
- 第7回 徳川幕藩体制中期と海外情報
- 第8回 経世論と海外情報
- 第9回 海防論と海外情報
- 第10回 科学技術と海外情報
- 第11回 開国の影響下における諸思想の展開
- 第12回 近世思想の現代性
- 第13回 近世思想を考える
- 第14回 総括・まとめ—近世思想における海外情報の意義—

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% ペーパーの使用による試験を実施。

レポート	0%
平常点	30% リアクションペーパーの作成。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席の場合は単位認定が不可能となります。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストとしてレジュメを配布します。参考書は適宜、紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

講義中は私語厳禁。先々の社会人としての行動を見ずえて、さまざまなことに配慮できる姿勢を強く意識してください。  
★要注意★歴史的な文献資料 (古文書・翻刻版・くずし字など) を多く読む機会となります。担当の割り当てもあるので、日本史・思想史に関する専門的知識を知的基盤 ( (史学科の3年生以上の修学水準がのぞましい) ) として準備しておく必要があります。

### 参考URL

### 備考

科目名: 日本政治・法制史A

担当教員: 榎本 淳一

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 金5

配当年次: 3・4年次担当

科目ナンバー: LE-JH3-F405

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:29 更新者: AB6308

更新日時: 2022-12-07 17:31:47

#### 履修条件・関連科目等

特になし。

#### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

#### 授業で使用する言語(その他の言語名)

#### 授業の概要

前期のAでは、日本古代の政治史を講義する。5世紀から9世紀半ばに至る古代国家の成立・発展過程を論ずる。

#### 科目目的

日本古代史の大きな流れを把握し、通説とは異なる新たな歴史的視点を身につける。

#### 到達目標

1. 日本古代政治史の基礎事項を説明できる。
2. 史料に基づき、歴史的な事件を理解できる。
3. 通説に捕らわれず、論理的に思考できる。
4. 自らの考えを適切に論述できる。

#### 授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 倭の五王の時代
- 第3回 遣隋使と推古朝の政治改革
- 第4回 大化改新とは何か
- 第5回 白村江の戦いとその影響
- 第6回 壬申の乱の歴史的意義
- 第7回 持統朝と天皇制
- 第8回 大宝律令の歴史的位
- 第9回 聖武天皇と藤原広嗣の乱
- 第10回 淳仁天皇と藤原仲麻呂
- 第11回 桓武天皇と平安遷都
- 第12回 平城太上天皇の変
- 第13回 清和天皇と摂関政治
- 第14回 まとめ(学習成果の確認)

※履修者の理解度や授業の進度に応じて、計画を変更する場合がある。

#### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

#### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業終了後には、ノート整理など復習をすること。

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 60%
  1. 授業内容を正確に理解していること。
  2. 理解していることを論理的に適切に文章で表現できること。
  3. まじめに授業や課題に取り組む姿勢があること。

レポート	0%	
平常点	40%	毎回、授業中に問題を出し、解答してもらう。その内容の充実度で評価する。また、受講態度も評価に加味する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

出席率が70%に満たない者、または無断欠席が3回連続した者は、成績評価の対象外とする。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

参考文献：佐藤信編『古代史講義—邪馬台国から平安時代まで』（筑摩書房、2018年）880円＋税  
ISBN978-4-480-07117-0

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



科目名: 日本政治・法制史B

担当教員: 榎本 淳一

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 金5

配当年次: 3・4年次担当

科目ナンバー: LE-JH3-F406

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:30 更新者: AB6308

更新日時: 2022-12-07 17:30:38

#### 履修条件・関連科目等

特になし。

#### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

#### 授業で使用する言語(その他の言語名)

#### 授業の概要

後期のBでは、日本古代の法や制度の歴史を講義する。古代国家の支配の仕組みを、様々な側面から論じることしたい。

#### 科目目的

日本古代の法・制度の歴史をその機能・実態から理解し、古代国家の支配構造を多面的に把握する。

#### 到達目標

1. 日本古代法制史の基礎事項を説明できる。
2. 史料に基づき、歴史的な事件を理解できる。
3. 通説に捕らわれず、論理的に思考できる。
4. 自らの考えを適切に論述できる。

#### 授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 国号(倭と日本)
3. 君主号(大王と天皇)
4. 身分制度(良賤制度)
5. 外交制度(国際秩序と外交)
6. 貿易管理制度(朝貢と貿易)
7. 情報管理制度(書禁と禁書)
8. 土地制度(公地公民制と墾田永年私財法)
9. 刑罰制度(固有法と律令法)
10. 礼制(儀礼と政治秩序)
11. 教育制度(教育と文化)
12. 医療制度(漢方医学)
13. 社会福祉制度(社会的弱者の救済)
14. まとめ(学習成果の確認)

※授業の進行状況および履修者の理解度によって変更が生じる場合がある。

#### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと  
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

#### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業終了後には、ノート整理など復習をすること。

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

#### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- |      |     |   |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0%  |   |
| 期末試験 | 60% | 1. 授業内容を正確に理解していること。<br>2. 理解していることを論理的に適切に文章で表現できること。<br>3. まじめに授業や課題に取り組む姿勢があること。 |

レポート	0%	
平常点	40%	毎回、授業中に問題を出し、解答してもらう。その内容の充実度で評価する。また、受講態度も評価に加味する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

参考文献：大津透『律令国家と隋唐文明』（岩波書店、2020年）840円＋税  
ISBN978-4-00-431827-9

### オフィスアワー

### その他特記事項

授業は板書（もしくは講師が作成したスライド）を中心に進める。講義形式ではあるが、小レポートで自分の考えを述べるようにしてほしい。

### 参考URL

### 備考

科目名: 日本社会経済史A

担当教員: 落合 功

履修年度: 2023 学期: 前期

開講曜日時限: 木4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-JH3-F407

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:30 更新者: AB3754

更新日時: 2022-12-17 20:42:27

**履修条件・関連科目等**

**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)**

**授業の概要**

日本金融史を軸にした経済史について、古代から現代にいたるまでを概説します。

**科目目的**

金融の歴史を古代から現在に至るまで紹介することで、通史的理解を目指す。

**到達目標**

「金融とは何か」について、歴史的に紹介できるようになる。

**授業計画と内容**

1. ガイダンス
2. 貨幣の登場と流通
3. 信用取引、貸借契約、手形・為替
4. 中世的慣行(悔い返し、徳政令、贈答)、黄金の国、天下統一
5. 紙幣・保険・三貨制度、藩札
6. 信用取引と先物取引、貨幣経済の浸透
7. 前近代の金融制度(前半確認作業)
8. 太政官札の発行、国立銀行の設立
9. 松方財政と日本銀行
10. 恐慌と一県一行主義
11. 戦後民主化と三大改革
12. 戦後直後のハイパーインフレ、ドッジライン 高度経済成長
13. 近代の金融制度(後半確認作業)
14. 前期のまとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 講義の内容を整理する意味で、テキストを要約し、講義の内容の理解度合いから評価する。
平常点	60% 授業の参加、受講態度、課題への対応などから評価する。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

講義の出席者と相談して、成績方法について調整することがある。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

必要に応じて、総評を行うようにする。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：落合功『新版入門日本金融史』日本経済評論社、2016年 ISBN978-4-8188-2429-4

### オフィスアワー

### その他特記事項

現在、対面講義で行う予定です。  
基本的に時間通りに始め、早めに終わるように心がけています。遅刻や私語などへの対応は厳しいので、注意すること。  
1度、2度の欠席で単位を落とすことはありません。逆に、原則として、公欠や電車の遅延なども認めません。この講義は、試験をやらず、平常点重視(レポート含む)の講義です。自己責任で出欠の判断をしてください。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 日本社会経済史B****担当教員： 落合 功**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：木4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F408

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:30 更新者：AB3754

更新日時：2022-12-17 20:45:20

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日本社会経済史（特に、近世、近現代）における諸問題について紹介する。

**科目目的**

近世を中心に、当時の経済社会について考える。

**到達目標**

近世社会、近代への展望について経済の変化から考え、説明できるようになる。

**授業計画と内容**

1. ガイダンス
2. 『国益思想の源流』を読む（宝暦・天明期という時代）
3. 『国益思想の源流』を読む（池上幸豊と海中新田開発）
4. 『国益思想の源流』を読む（砂糖作りを始める）
5. 『国益思想の源流』を読む（国益思想の様相）
6. 『国益思想の源流』を読む（国益思想の時代・総括）
7. 国益思想と封建思想を考える（まとめ）
8. 『評伝 大久保利通』を読む（薩摩藩士大久保利通）
9. 『評伝 大久保利通』を読む（明治維新）
10. 『評伝 大久保利通』を読む（海外を見聞する）
11. 『評伝 大久保利通』を読む（北京での交渉）
12. 『評伝 大久保利通』を読む（政治体制から経済へ）
13. 大久保利通と明治維新について考える（まとめ）
14. 後期のまとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	テキストを読んで講義の内容を整理する意味で、テキストを要約し、理解度を評価してもらう。（2冊いずれも）
平常点	50%	授業の参加、受講態度、課題への対応などで評価する。
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト：落合功『国益思想の源流』（同成社、2016年）、ISBN978-4-88621-745-5  
落合功『評伝 大久保利通』（日本経済評論社、2017年）ISBN978-4-8188-2011-1

## オフィスアワー

## その他特記事項

対面授業で実施する予定です。  
基本的に時間通りに始め、早めに終わるように心がけています。遅刻や私語などへの対応は厳しいので、注意すること。  
1度、2度の欠席で単位を落とすことはありません。逆に、原則として、公欠や電車の遅延なども認めません。この講義は、試験をやらず、平常点重視（レポート含む）の講義です。自己責任で出欠の判断をしてください。

## 参考URL

## 備考

**科目名： 日本家族史A****担当教員： 坂田 聡**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F409

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:30 更新者：AA9820

更新日時：2022-12-30 20:27:51

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

- (1) 家と家族が必ずしも同義ではないことを明らかにした上で、日本人の生活と意識を長年にわたり規定してきた家とは何かという問題について検討する。その際、かつて家をめぐり活発な議論を行っていた家族社会学、農村社会学、民俗学、法社会学、社会人類学といった学問の研究成果も踏まえる。
- (2) 家の成立期に関する古代史・中世史の見解と、近世史の見解を提示した上で、どちらも一面的であることを指摘する。そして、本講義では家社会の成立期を戦国時代に求める。
- (3) 日本における家社会の成立期である戦国時代が、東アジアレベルでの「伝統社会」の成立期にあたることを明らかにする。その上で、「プレ家社会→家社会→ポスト家社会」という歴史的な変遷に関する仮説を示し、その根拠を説明する。

**科目目的**

日本における家族や男女関係のあり方、さらには日本社会の特質を考える上で重要な意味を持つ家制度について、「プレ家社会→家社会→ポスト家社会」という仮説をもとに、それがいつ頃成立し、いかなる特質をもっていたか明らかにする。そこから、家社会が崩壊し、ポスト家社会の段階に入りつつある21世紀の日本における家族問題を理解する手がかりを得る。

**到達目標**

- ①日本の家制度とはどのような制度か理解する。
- ②家制度が家族や男女関係、さらには社会のあり方にいかなる影響を与えたか理解する。
- ③家制度の成立から崩壊に至る歴史過程を理解する。

**授業計画と内容**

対面形式で授業を行う。80分程度の講義（前回授業の復讐、前回の小レポートの紹介とコメントの時間も含む）を行ったのち、manabaのレポート機能を用いて、講義内容についての感想・意見・質問を記す小レポートの時間を20分程度とする。講義を受講する際には、manabaのコンテンツにアップしたレジュメ及び資料プリントをダウンロードし、それらを参照しながら講義を聞いていただきたい。

- 第1回 プロローグ—授業内容の説明等—
- 第2回 家とは何か—家と家族の関係—
- 第3回 家に関する諸研究—社会学・民俗学・人類学—
- 第4回 家の成立期をめぐる議論・1—古代史・中世史—
- 第5回 家の成立期をめぐる議論・2—近世史—
- 第6回 家成立の前提—嫁取り婚と嫡男単独相続の一般化—
- 第7回 家と家名・1—苗字—
- 第8回 家と家名・2—屋号—
- 第9回 家と家産・家業
- 第10回 家と家格
- 第11回 家と女性
- 第12回 家と同族・親戚
- 第13回 家と東アジア伝統社会
- 第14回 総括とまとめ・歴史は繰り返す?—プレ家社会・家社会・ポスト家社会—

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

## 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

## 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	70% 授業内容に関わる文献を読んだ上で、論点を絞って考察します。①課題設定の適切さ、②研究史整理の妥当性、③論証の的確さ、④論理展開の明確性の4点を基準にして評価します。
平常点	30% ①授業への参加度、②小レポート(リアクションペーパー)の内容の2点から評価します。
その他	0%

## 成績評価の方法・基準(備考)

レポートが不合格の受講生については、平常点の割合を高めて成績評価をします(レポート60%、平常点40%程度)。ただし、C評価以上にはしません。

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト  
・坂田聡『苗字と名前の歴史』(吉川弘文館)

参考文献  
・坂田聡・榎原雅治・稲葉継陽『村の戦争と平和』(日本の中世12巻、中央公論新社)  
・坂田聡『家と村社会の成立』(高志書院)  
・大藤修『近世農民と家・村・国家』(吉川弘文館)  
・大藤修『日本人の姓・苗字・名前』(吉川弘文館)  
・西谷正浩『中世は核家族だったか』(吉川弘文館)



- ・早川タダノリ編『まぼろしの「日本的家族」』（青弓社）
- ・本田由紀・伊藤公雄編『国家がなぜ家族に干渉するのか』（青弓社）

### オフィスアワー

### その他特記事項

日本家族史Bもあわせて履修することが望ましい。日本史学専攻以外の学生の履修も歓迎する。

### 参考URL

### 備考

---

**科目名： 日本家族史B****担当教員： 坂田 聡**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限： 火2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F410

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:31 更新者：AA9820

更新日時：2022-12-30 20:36:42

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

- (1) 今日における家族や男女関係をめぐる諸問題に触れた上で、歴史を常に進歩発展するものとしてとらえる立場からは、家族や男女関係の歴史を十分にとらえることができない事実を明らかにする。
- (2) 家族史・女性史研究のあゆみについて、戦前、戦後、そしてジェンダー史の登場以降に分けてレクチャーする。
- (3) 古代、中世、近世、近代の順で、各時代の家族や男女関係に関する論点について、ジェンダー史の視点も踏まえて具体的に説明する。

**科目目的**

家族史・女性史に関する研究のあゆみを説明した上で、日本における家族や男女関係の歴史的な変遷について、時代を追って検討する。その際、ジェンダー史的な視点を重視して議論を進める。

**到達目標**

- ① 戦前の高群逸枝以来の日本独特の女性史の発端や研究方法の特徴を理解し、それと、1990年代に欧米よりもたらされたジェンダー史との違いを理解する。
- ② 日本における家族や男女関係をめぐる諸問題が、古代・中世・近世・近代と時代を経るにしたがって、いかなる理由により、どのように変化したか理解する。

**授業計画と内容**

対面形式で授業を行う。80分程度の講義（前回授業の復讐、前回の小レポートの紹介とコメントの時間も含む）を行ったのち、manabaのレポート機能を用いて、講義内容についての感想・意見・質問を記す小レポートの時間を20分程度とする。講義を受講するに際しては、manabaのコンテンツにアップしたレジュメ及び資料プリントをダウンロードし、それらを参照しながら講義を聞いていただきたい。

- 第1回 プロローグ―授業内容の説明等―
- 第2回 家族史・女性史研究のあゆみ・1―戦前―
- 第3回 家族史・女性史研究のあゆみ・2―戦後―
- 第4回 家族史・女性史研究のあゆみ・3―ジェンダー史の登場以後―
- 第5回 古代における家族と男女関係・1―戸籍と計帳をめぐって―
- 第6回 古代における家族と男女関係・2―古代の恋愛と婚姻―
- 第7回 古代における家族と男女関係・3―古代女性のライフサイクル―
- 第8回 中世における家族と男女関係・1―婚姻と居住形態と家族のあり方―
- 第9回 中世における家族と男女関係・2―「家」から家へ―
- 第10回 中世における家族と男女関係・3―中世社会とジェンダー―
- 第11回 近世における家族と男女関係・1―近世前期の家と家族―
- 第12回 近世における家族と男女関係・2―近世後期農村の家とジェンダー―
- 第13回 近代における家族と男女関係・1―大正期の家族と女性―
- 第14回 近代における家族と男女関係・2―昭和戦前期の家族と女性―

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

## 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	70% 授業内容に関わる文献を読んだ上で、論点を絞って考察します。①課題設定の適切さ、②研究史整理の妥当性、③論証の的確さ、④論理展開の明確性の4点を基準にして評価します。
平常点	30% ①授業への参加度、②小レポート(リアクションペーパー)の内容の2点から評価します。
その他	0%

## 成績評価の方法・基準(備考)

レポートが不合格の受講生については、平常点の割合を高めて成績評価をします(レポート60%、平常点40%程度)。ただし、C評価以上にはしません。

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト  
特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

- 参考文献
- ・『岩波講座日本通史』古代5、中世2、近世2、近代3(岩波書店)
  - ・『岩波講座日本歴史』古代4、中世2、近世5、近現代3(岩波書店)
  - ・明石一紀 『古代・中世のイエと女性』(校倉書房)
  - ・西谷正浩 『中世は核家族だったか』(吉川弘文館)
  - ・坂田聡 『苗字と名前の歴史』(吉川弘文館)
  - ・長野ひろ子 『日本近世ジェンダー論』(吉川弘文館)
  - ・大藤修 『近世農民の家・村・国家』(吉川弘文館)
  - ・大口勇次郎他編 『ジェンダー史』(新体系日本史9、山川出版社)
  - ・早川タダノリ編 『まぼろしの「日本的家族」』(青弓社)
  - ・本田由紀・伊藤公雄編 『国家がなぜ家族に干渉するのか』(青弓社)

## オフィスアワー

**その他特記事項**

日本家族史Aもあわせて履修することが望ましい。日本史学専攻以外の学生の履修も歓迎する。

**参考URL**

**備考**

---

**科目名： 対外関係史A****担当教員： 米谷 均**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F411

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:31 更新者：AC8778

更新日時：2023-01-07 12:07:18

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

日韓関係は「関係改善が必要」と言われつつも、かつてのように「近くて遠い国」になりつつある。その一因は、不可逆的に解消したはずの両国の「歴史問題」が、なぜか常態的に蒸し返されて続けたからである。かかる状況下にて、我々はどうにして隣国に接すればよいのであろうか？。

本授業は、対馬と沖縄（琉球）の対外交渉に焦点を絞り、東アジア・東南アジア海域の交流史を検討する。対馬と沖縄は、日本本土から見れば「辺境」であるが、同時に日朝関係・日中関係の「窓口」でもあった。両者の「立ち位置」を考察することを通じて、前近代東アジア外交の特質についても検討する。また授業においては、画像や動画を活用し、可能であれば、このジャンルに関連した特集番組などを披露したい。

**科目目的**

東シナ海域・南シナ海域における交流史を、外交・戦争・貿易・掠奪・文化交流などの諸側面から、多角的に検討する。具体的には、対馬と沖縄（琉球）を軸に、前近代における日本とアジア諸地域との相互交流史を理解する。

**到達目標**

講義内容を十分に理解した上で、様々な資料に対する分析能力の獲得し、課題に対する調査能力を習得することを目標にする。

**授業計画と内容**

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | I 授業の概説（対馬と琉球の歴史概説）                      |
| 第2回  | II 『対馬宗氏と応永の外寇』 1 宗氏の対朝鮮通交／応永の乱と日本社会への影響 |
| 第3回  | III 『高麗・朝鮮仏教文物の日本渡来』 1 日本伝来の経緯           |
| 第4回  | 2 仏教文物に対する日朝両国の姿勢の相違                     |
| 第5回  | 3 高麗・朝鮮仏画の評価／文物とナショナリズム                  |
| 第6回  | IV 『江戸時代における日朝中の物流構造』 1 近世日本の「鎖国」政策と銀の輸出 |
| 第7回  | 2 銀と生糸と朝鮮人参                              |
| 第8回  | V 『「南島」「琉球」世界のイメージ』 1 古代日本と「南島」／中国の「流求」像 |
| 第9回  | 2 中世日本の境界観／「流求」から「琉球」へ                   |
| 第10回 | VI 『琉球王国の対外貿易と外国人社会』 1 「万国の架け橋」としての琉球    |
| 第11回 | 2 琉球の華人社会／琉球の日本人社会                       |
| 第12回 | VII 『琉球と日本との関係史』 1 室町幕府と琉球との通交／細川氏の通交関与  |
| 第13回 | 2 大内氏の琉球通交／島津氏の琉球通交                      |
| 第14回 | 教場試験とまとめ                                 |

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回授業前に前の回に配布したレジメに必ず目を通した上で聴講すること。また、授業内容の復習を必ず行い、課題が提示された場合はそれに取り組むこと。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |                         |
|------|-------------------------|
| 中間試験 | 0%                      |
| 期末試験 | 80% 最終回における教場試験の評価（素点）。 |

レポート	10%	自由提出の感想レポート。
平常点	10%	授業への参加度。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

#### 参考文献

- : 大石直正・高良倉吉・高橋公明編『周縁から見た中世日本』(講談社。日本の歴史14。2001年)
- : 豊見山和行編『琉球・沖縄史の世界』(吉川弘文館。日本の時代史18。2003年)
- : 佐伯弘次『対馬と海峡の中世史』(山川出版社。歴史リブレット77。2008年)
- : 関周一『対馬と倭寇』(高志書院。高志書院選書8。2012年)
- : 橋本雄『偽りの外交使節―室町時代の日朝関係一』(吉川弘文館。2012年)
- : 荒木和憲『対馬宗氏の中世史』(吉川弘文館。2017年)
- : 黒嶋敏・屋良健一郎編『琉球史料学の船出』(勉誠出版。2017年)
- : 池内敏『絶海の碩学―近世日朝外交史研究一』(名古屋大学出版会。2017年)
- : 松方冬子編『国書がむすぶ外交』(東京大学出版会。2019年)
- : 真栄平房昭『琉球海域史論』(榕樹書林。2020年)
- : 酒井雅代『近世日朝関係と対馬藩』(吉川弘文館。2021年)
- : 程永超『華夷変態の東アジア』(清文堂。2021年)

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL



科目名: 対外関係史B

担当教員: 米谷 均

履修年度: 2023 学期: 後期

開講曜日時限: 水4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー: LE-JH3-F412

登録者: DA1410admi 登録日時: 2022-10-28 09:41:31 更新者: AC8778

更新日時: 2023-01-07 12:01:36

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現在、日中関係はコロナの影響もあって冷え冷えとしている。また中国政府の「一帯一路」構想に伴う海洋進出や尖閣諸島問題など、予断を許さぬ事態が発生する可能性が、常に存在している。かかる問題に直面した時、我々はどのように対応すべきであろうか？。

本授業は、「近くて遠い」日中関係史を軸に、書籍や文物や情報の交流と、それを担った海商や僧侶などの動きを考察し、前近代における東アジア外交の特質について検討する。それと比較対照するために、東アジア世界を大航海時代のキリスト教世界から俯瞰してみる。そして異文化の衝突という視点からみた相互不理解の様相を考察する。また授業においては、画像や動画URLを活用し、可能であれば、このジャンルに関連した特集番組や映画などを紹介したい。

**科目目的**

東シナ海域・南シナ海域における交流史を、外交・戦争・貿易・掠奪・文化交流などの諸側面から、多角的に検討する。具体的には、対馬と沖縄(琉球)を軸に、前近代における日本とアジア諸地域との相互交流史を理解する。

**到達目標**

講義内容を十分に理解した上で、様々な資料に対する分析能力の獲得し、課題に対する調査能力を習得すること。

**授業計画と内容**

第1回	I 授業の概説	
第2回	II 『東アジア世界におけるブック・ロード』	1 「本の道」と日中関係/佚存書の還流
第3回		2 近世から明治以降における書籍の流れ
第4回	III 『中国渡海の日本人僧の「身分証明書」』	1 遣唐使の時代/入宋「巡礼僧」の時代
第5回		2 遊学僧の時代/明の海禁と遊学の終焉
第6回	IV 『東シナ海域の季節風と遣明船』	1 遣明船の航路/航海技術/航海信仰
第7回		2 遣明船における客死/日中船舶の構造相違
第8回	V 『遣明船と文化交流』	1 漢詩文の応酬と肖像賛・行状記など
第9回		2 送別詩をめぐる虚々実々(偽造行為)
第10回	V 『キリスト教世界から見た東アジア』	1 カトリック教国の「世界分割」構想
第11回		2 イエズス会とフランシスコ会の抗争
第12回	VI 『秀吉の伴天連追放令とキリシタン教界』	1 豊臣秀吉とバテレンたちの相互不理解
第13回		2 バテレン追放令はなぜ発令されたのか
第14回	教場試験とまとめ	

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

毎回授業前に前の回に配布したレジメに必ず目を通した上で聴講すること。また、授業内容の復習を必ず行い、課題が提示された場合はそれに取り組むこと。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%



期末試験	80%	最終回の教場試験の評価（素点）。
レポート	10%	自由提出の感想レポート
平常点	10%	授業への参加度。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）

反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

参考文献

- ：高瀬弘一郎『キリシタン時代の研究』（岩波書店。1977年）
- ：五野井隆史『日本キリスト教史』（吉川弘文館。1990年）
- ：荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係』全7巻（吉川弘文館。2010年～）
- ：榎本 渉『僧侶と海商たちの東シナ海』（講談社〔選書メチエ〕。2010年）
- ：久芳 崇『東アジアの兵器革命』（吉川弘文館。2010年）
- ：橋本 雄『"日本国王"と勘合貿易』（NHK出版。2013年）
- ：村井章介編『日明関係史研究入門』（勉誠出版。2015年）
- ：ルシオ・デ・ソウザ 岡美穂子『大航海時代の日本人奴隷』（中央公論新社。2017年）
- ：松方冬子編『国書がむすぶ外交』（東京大学出版会。2019年）
- ：川村信三編『キリシタン歴史探求の現在と未来』（教文館。2021年）
- ：程 永超『華夷変態の東アジア』（清文堂。2021年）

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL



**科目名： 明治維新史A****担当教員： 宮間 純一**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水5

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JH3-F413

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:31 更新者：AA1830

更新日時：2022-12-07 16:17:54

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

明治維新の通史について、政治・外交・社会・文化史上の主要なテーマを取り上げながら講義する。

**科目目的**

近代日本の発端として語られてきた明治維新の通史を学ぶことで、その全体像を受講生なりに再構築するとともに、明治維新が日本社会にもたらした功罪を考える力を養う。

**到達目標**

明治維新の通史を「暗記する」のではなく、講義で示された事柄を咀嚼し、現在との関わりのなかで独自の歴史意識を持てるようになる。

**授業計画と内容**

- 1 明治維新と現在
- 2 明治維新史研究の動向
- 3 世界史の中の明治維新
- 4 幕末政治史の諸課題（ペリー来航前後）
- 5 幕末政治史の諸課題（開国以降）
- 6 幕末政治史の諸課題（尊攘運動の展開）
- 7 幕末政治史の諸課題（王政復古）
- 8 幕末政治史の諸課題（戊辰戦争）
- 9 明治政府の諸改革（太政官制の発足）
- 10 明治政府の諸改革（廃藩置県）
- 11 明治政府の諸改革（身分制度の解体）
- 12 明治政府の諸改革（文明開化）
- 13 明治政府の諸改革（明治初期の外交）
- 14 明治政府の諸改革（西南戦争まで）

※感染症拡大の状況等によって実施方法を変更することがある。  
その場合は、manabaにて受講生に連絡する。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

課題（小テスト）は授業時間内で完結できる問題を出すか、〆切りまでに提出すれば授業時間外でも可とする。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%

平常点 100% 毎回講義の内容に関連した小テスト（200字から800字）を課す。13回分を各7点で採点し、最終回の14回のみ9点配点とする。なお、合計点にかかわらず小テストの提出回数が10回に満たない者は不合格とする。

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回の小テストの採点基準は以下の通り。(第14回は自己の見解の説得力に応じて2点分加点する)

- 7点：講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を説得的・理論的に展開できている。
- 6点：講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を述べる事ができている。
- 5点：講義の内容をまとめているが、自己の見解が不十分である。
- 4点：講義の内容をまとめているが、自己の見解がほとんど見られない。
- 3点：講義の内容をまとめているが、自己の見解がまったくない。
- 2点：講義の内容の一部がまとめられている。
- 1点：講義の内容をまとめているが、不正確な箇所が多い。
- 0点：講義の内容と関係のない記述しかない。

※コピー等の不正を発見した場合は、理由にかかわらず不合格とする。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

(テキスト)  
とくに定めなし

(参考文献)  
明治維新史学会編『講座明治維新』1～12 (有志舎、2010年～2018年)  
宮地正人『幕末維新変革史』上・下 (岩波書店、2012年)  
井上清『明治維新』(日本の歴史20、中央公論新社、2006年)  
松尾正人『維新政権』(吉川弘文館、1995年)  
井上勲『王政復古』(中公新書、1991年)

### オフィスアワー

### その他特記事項

テキスト・レジュメは必要に応じて配布する。  
講義に関する質問はメールで受け付ける。

参考URL

備考

---

**科目名： 明治維新史B****担当教員： 宮間 純一**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：水5

配当年次：3・4年次担当

科目ナンバー：LE-JH3-F414

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:31 更新者：AA1830

更新日時：2022-12-07 16:18:13

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

幕末から明治期に中央・地方で起きた具体的な出来事について史料を提示しながら解説する。

**科目目的**

近代日本の発端として語られてきた明治維新の各論（身分、ジェンダー、天皇など）を学ぶことで、その全体像を受講生なりに再構築するとともに、明治維新が日本社会にもたらした功罪を考える力を養う。

**到達目標**

明治維新に関する各テーマを「暗記する」のではなく、講義で示された事柄を咀嚼し、現在との関わりのなかで独自の歴史意識を持てるようになる。

**授業計画と内容**

- 1 天皇と明治維新
- 2 公家の明治維新
- 3 幕臣の明治維新
- 4 豪農の明治維新
- 5 多摩の明治維新
- 6 島の明治維新
- 7 女性の明治維新
- 8 被差別民の明治維新
- 9 大名の明治維新
- 10 藩士の明治維新
- 11 下級武士の明治維新
- 12 宗教者の明治維新
- 13 明治維新と「功臣」
- 14 明治維新史研究の総括・まとめ

※感染症拡大の状況等によって実施方法を変更することがある。  
その場合は、manabaにて受講生に連絡する。

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

課題（小テスト）は授業時間内で完結できる問題を出すか、〆切りまでに提出すれば授業時間外でも可とする。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	0%	
平常点	100%	毎回講義の内容に関連した小テスト（200字から800字）を課す。13回分を各7点で採点し、最終回の14回のみ9点配点とする。なお、合計点にかかわらず小テストの提出回数が10回に満たない者は不合格とする。

### 成績評価の方法・基準(備考)

毎回の小テストの採点基準は以下の通り。(第14回は自己の見解の説得力に応じて2点分加点する)

7点：講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を説得的・理論的に展開できている。

6点：講義の内容を踏まえた上で、自己の見解を述べる事ができている。

5点：講義の内容をまとめているが、自己の見解が不十分である。

4点：講義の内容をまとめているが、自己の見解がほとんど見られない。

3点：講義の内容をまとめているが、自己の見解がまったくない。

2点：講義の内容の一部がまとめられている。

1点：講義の内容をまとめているが、不正確な箇所が多い。

0点：講義の内容と関係のない記述しかない。

※コピー等の不正を発見した場合は、理由にかかわらず不合格とする。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは特に使用せず、レジュメを配付する。

参考文献は、適宜講義中に紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

講義の進行にあわせて、適宜、明治維新史関係の文献・参考書を読むこと。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 記録史料学A****担当教員： 清水 善仁**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-PL3-F415

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:32 更新者：AA2036

更新日時：2022-12-27 17:29:00

**履修条件・関連科目等**

「記録史料学B」をあわせて履修することが望ましい。

**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、公文書館に関する二つのテーマに焦点を当てます。第一は公文書館という存在それ自体について。公文書館というものがあるようにして現代までに形作られ、かつ社会のなかで位置づけられてきたのかを、理念・歴史・専門職員それぞれの視点から考えます。第二は公文書館が担う機能について。公文書館でおこなわれている各種の業務（記録の移管・収集・整理・公開・普及啓発・保存修復等）を具体的な事例や演習をまじえて考察し、その意義と課題について明らかにします。

**科目目的**

記録史料学は現在ではアーカイブズ学とも呼ばれています。アーカイブズという言葉は、学問的には将来にわたって保存すべき記録のことを指し、かつそうした記録を適切に管理・公開する公文書館などの施設を指す言葉として定義されています。したがって、記録史料学とは過去から現代にいたる記録について、あるいは公文書館やその機能について研究する学問です。とはいえ、記録の何について研究するのかこの定義だけでは分からないし、公文書館といわれても日本においてははまだ認知度が高いこの施設についてどのような研究が成り立つのかと、疑問に思う人もいるかもしれません。この講義では、こうした疑問に答えることを出発点として、記録史料学の基礎を学ぶことで、その専門的学識を身に付けることを目的とします。事前の知識はさほど必要としませんが、取り扱うテーマは幅広いです。したがって、講義では映像や演習等をまじえつつ、記録史料学の現状や課題について履修者とともに考えていきます。また、日本史学はもとより歴史学を専攻する学生にとって、卒業論文の執筆に向けた自身の研究のなかでは、記録（史料）に基づく事実の解明や分析・解釈が求められます。その際、記録に書かれた内容に注目することはもちろんのことですが、それだけではなく、記録が作成・管理されてきた背景や文脈を探ることも大切なことです。あるいは、記録の調査研究のために公文書館等の施設を訪問することもあるでしょう。このような点で、歴史学と記録史料学は密接な関係を有するものですから、この講義を通して、履修者それぞれの研究に資する情報や素材を提供していきたいと思っています。

**到達目標**

本講義で学んだ公文書館や記録史料に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の歴史研究につなげて考察することができるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス：記録史料学への招待
- 第2回 記録史料学とは何か
- 第3回 公文書館制度の歴史
- 第4回 公文書館制度の現在
- 第5回 公文書館専門職員（アーキビスト）の役割
- 第6回 公文書の移管と評価選別
- 第7回 地域史料の調査と収集
- 第8回 記録史料の整理と目録作成（講義）
- 第9回 記録史料の整理と目録作成（演習）
- 第10回 記録史料の公開をめぐる諸問題
- 第11回 公文書館の普及啓発活動
- 第12回 多様な公文書館の世界を知る
- 第13回 記録史料の保存と修復
- 第14回 総括・まとめ：公文書館の将来像

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

予習は不要ですが、各回の講義で学んだ内容について、参考文献にあたるなどして復習することは必要です。その作業を通して、記録史料学やアーカイブズへの理解をさらに深めてください。



### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
レポート	0%
平常点	30% リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席（リアクションペーパーの提出）が全開講回数の半数に満たない者はE判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

これまでに京都大学大学図書館や神奈川県立公文書館等の公文書館に勤務し、公文書や古文書・私文書の収集・整理・保存・公開等のアーカイブズ実務に携わった経験を有しています。

### 実務経験に関連する授業内容

記録史学の理論や方法が、公文書館の現場においてどのように受容され、また実践されているかを、これまでの経験をふまえて講述したいと思います。

### テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回資料を配布してそれをもとに講義を進めます。参考文献はそのつど紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL



**科目名： 記録史料学B****担当教員： 清水 善仁**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-PL3-F416

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:32 更新者：AA2036

更新日時：2022-12-27 17:28:04

**履修条件・関連科目等**

「記録史料学A」を履修済みであることが望ましい。

**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本講義では、「記録史料学A」で学んだ内容を受けて、公文書館等に収蔵される記録史料の諸相に焦点を当てます。古代から現代にいたる社会のなかで、記録がどのように作成・運用・管理・保存されてきたのかを、それぞれの時代の事例を取り上げて講述するとともに、それに関する当時の記録史料の講読をおこなうことで、よりその理解を深めます。なお、担当教員の専門の関係上、近世および近現代の記録史料に関する講義が中心となります。

**科目目的**

記録史料学は現在ではアーカイブズ学とも呼ばれています。アーカイブズという言葉は、学問的には将来にわたって保存すべき記録のことを指し、かつそうした記録を適切に管理・公開する公文書館などの施設を指す言葉として定義されています。したがって、記録史料学とは過去から現代にいたる記録について、あるいは公文書館やその機能について研究する学問です。とはいえ、記録の何について研究するのかこの定義だけでは分からないし、公文書館といわれても日本においてははまだ認知度が高くこの施設についてどのような研究が成り立つのかと、疑問に思う人もいるかもしれません。この講義では、こうした疑問に答えることを出発点として、記録史料学の基礎を学ぶことで、その専門的学識を身に付けることを目的とします。事前の知識はさほど必要としませんが、取り扱うテーマは幅広いです。したがって、講義では映像や演習等をまじえつつ、記録史料学の現状や課題について履修者とともに考えていきます。また、日本史学はもとより歴史学を専攻する学生にとって、卒業論文の執筆に向けた自身の研究のなかでは、記録(史料)に基づく事実の解明や分析・解釈が求められます。その際、記録に書かれた内容に注目することはもちろんのことですが、それだけではなく、記録が作成・管理されてきた背景や文脈を探ることも大切なことです。あるいは、記録の調査研究のために公文書館等の施設を訪問することもあるでしょう。このような点で、歴史学と記録史料学は密接な関係を有するものですから、この講義を通して、履修者それぞれの研究に資する情報や素材を提供していきたいと思っています。

**到達目標**

本講義で学んだ公文書館や記録史料に関する知識を、卒業論文をはじめとする自身の歴史研究につなげて考察することができるようになることを目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方について
- 第2回 歴史学と記録史料学
- 第3回 古代・中世の組織と記録史料
- 第4回 近世の組織と記録史料①：総論／幕府・藩
- 第5回 近世の組織と記録史料②：村・都市
- 第6回 近世の組織と記録史料③：史料講読
- 第7回 近現代の組織と記録史料①：総論／公文書
- 第8回 近現代の組織と記録史料②：私文書
- 第9回 近現代の組織と記録史料③：史料講読
- 第10回 戦争と記録史料／公文書館
- 第11回 災害と記録史料／公文書館
- 第12回 大学と記録史料／公文書館
- 第13回 記録史料と公文書館をめぐる諸問題
- 第14回 総括・まとめ：記録史料学のこれから

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

予習は不要ですが、各回の講義で学んだ内容について、参考文献にあたるなどして復習することは必要です。その作業を通して、記録史料学やアーカイブズへの理解をさらに深めてください。

**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	講義の内容を十分に理解し、それをふまえた論述ができているかどうかを基準とします。
レポート	0%	
平常点	30%	リアクションペーパーの記載内容を基準とします。講義の内容をうけて自分の意見や考えがきちんと明示されているかを特に重視します。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：出席（リアクションペーパーの提出）が全開講回数の半数に満たない者はE判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

これまでに京都大学大学図書館や神奈川県立公文書館等の公文書館に勤務し、公文書や古文書・私文書の収集・整理・保存・公開等のアーカイブズ実務に携わった経験を有しています。

### 実務経験に関連する授業内容

記録史料学の理論や方法が、公文書館の現場においてどのように受容され、また実践されているかを、これまでの経験をふまえて講述したいと思います。

### テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回資料を配布してそれをもとに講義を進めます。参考文献はそのつど紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



**科目名： 日本宗教史A****担当教員： 石津 裕之**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限：水3

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F417

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:32 更新者：AD0986

更新日時：2022-12-30 11:58:22

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

近世における仏教や神道などの宗教について講義を行う。授業形式は面接授業である。宗教は多様な視点から考察することができるが、この授業では、僧侶や社家といった宗教者のあり様について解説を行う。具体的には、江戸幕府による宗教者に対する統制、宗教者の身分、宗教者と社会の関係などを取り上げる。また、門跡・修験・陰陽師といった、一般にはあまり馴染みのない宗教者についても紹介する。

**科目目的**

近世といえば、士・農・工・商のイメージが強いが、実は、僧侶や社家といった宗教者も社会の重要な構成員であり、他の身分の者には代替できない役割を国家・社会の中で果たしていた。その事実を踏まえるとき、宗教者のあり様を理解することは、近世の時代像を理解することに繋がるといえるだろう。この授業では、近年の研究成果にも目配りしながら、近世の宗教者がどのような制度の下で、いかなる願望・葛藤を抱えながら、民衆とともに生きていたかを紹介する。この授業での学びを通じて、近世の宗教者のあり様を理解するとともに、それを手がかりとして、近世の時代像についても理解を深めてもらいたい。

**到達目標**

- ・近世の宗教者のあり様について、基礎的な知識を習得し、自分の言葉で他者に説明できるようになる。
- ・近世の宗教者のあり様から見えてくる、江戸時代の国家・社会の姿について、自分の言葉で他者に説明できるようになる。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中世の宗教構造 ―近世の前提として―
- 第3回 江戸幕府による寺院・僧侶統制
- 第4回 僧侶の身分
- 第5回 寺院・僧侶と社会
- 第6回 門跡のあり様① ―幕府の前で―
- 第7回 門跡のあり様② ―朝廷の中で―
- 第8回 江戸幕府による神社・社家統制
- 第9回 社家の身分
- 第10回 神社・社家と社会
- 第11回 多様な宗教者のあり様① ―修験・陰陽師―
- 第12回 多様な宗教者のあり様② ―勸進聖・巫女―
- 第13回 寺院と神社の関係 ―近世の神仏習合―
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

授業中に紹介する参考文献を読んで関連事項について理解を深めるとともに、身近にある宗教に関する現象(寺社参詣や冠婚葬祭など)について、歴史的に考える習慣を身につけること。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験 60% 指定したテーマについて、講義内容を踏まえる形で、正確かつ具体的に叙述できるかを評価する。

レポート	0%	
平常点	40%	授業後にmanabaを通じて提出する感想で評価する。授業を受けて、どのようなことを考えたのかが明示できているかを重視する。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業を受けて疑問に思ったことや質問がある場合は、授業後に毎回提出してもらった感想の中で言及してもらい、次回授業の冒頭で時間の許す限り、応答するようにする。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
 ディスカッション、ディベート  
 グループワーク  
 プレゼンテーション  
 実習、フィールドワーク  
 その他

✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
 タブレット端末  
 その他

✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

✓ はい  
 いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストは無し。毎回の授業でレジュメを配布する。参考文献は授業の中で適宜紹介する。

### オフィスアワー

### その他特記事項

- ・第1回の授業では、授業の進め方や成績評価などについての詳細を説明するので、履修希望者は必ず出席すること。
- ・連絡事項が生じた場合、manabaのコースニュースに掲示するので、こまめにチェックすること。

### 参考URL

### 備考

**科目名： 日本宗教史B****担当教員： 繁田 真爾**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：水3

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-JH3-F418

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:32 更新者：AD1431

更新日時：2023-01-02 22:58:41

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

「近現代日本宗教史」をテーマとする授業。講義形式とする。

本授業では、幕末維新期から20世紀までの日本宗教史を概観する。宗教と国家・社会の関係、そして時代ごとの人びとの信仰のあり方を検討することで、日本の「近代」の意味や歴史的な位置づけについて考えてみたい。

**科目目的**

卒業論文の作成につながるように、広く深い視野で歴史に向き合う研究姿勢を身につける。政治史や経済史とは異なる思想・宗教史の視座から、日本近現代史を批判的に考察することができる問題意識の獲得をめざす。

**到達目標**

受講生が講義の内容を理解したうえで、それぞれの問題関心にもとづいて問いを立て、文献にあたり、史料を検討して考察することで、自身の見解を持つことができるようになる。

**授業計画と内容**

1. 近現代日本宗教史を学ぶ：視座と論点
2. 幕末・維新期の宗教：新政府の宗教政策
3. 明治前期の宗教（1）神道・仏教
4. 明治前期の宗教（2）キリスト教・民衆宗教
5. 明治後期の宗教（1）立憲体制の確立と宗教
6. 明治後期の宗教（2）戦争と社会問題
7. 大正期の宗教（1）「宗教的なもの」の広がり
8. 大正期の宗教（2）デモクラシー状況と宗教
9. 昭和前期の宗教（1）総力戦体制と宗教
10. 昭和前期の宗教（2）アジア太平洋戦争と宗教
11. 戦後の宗教（1）占領期
12. 戦後の宗教（2）戦後政治と宗教
13. 現代日本と宗教
14. 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

講義内容で疑問や関心を持った点について、参考文献を参照しながら本を読み、学びを深めること。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

中間試験	0%
期末試験	50% 授業内容をよく理解してそれを適切に論述・説明することができるか評価する。
レポート	0%
平常点	50% 授業の出席状況および提出されたレビューシートの内容により評価する。
その他	0%



**成績評価の方法・基準(備考)**

**課題や試験のフィードバック方法**

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

**課題や試験のフィードバック方法(その他)**

**アクティブ・ラーニングの実施内容**

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

**アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)**

**授業におけるICTの活用方法**

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

**授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)**

**実務経験のある教員による授業**

- ✓ はい  
いいえ

**【実務経験有の場合】実務経験の内容**

**実務経験に関連する授業内容**

**テキスト・参考文献等**

【参考文献】島藺進・末本文美士・大谷栄一・西村明編『近代日本宗教史』（全6巻、春秋社、2020～2021年）。  
その他の参考文献は、授業中にその都度紹介する。

**オフィスアワー**

**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

**科目名： 考古学特講A**

履修年度：2023 学期：前期

開講曜日時限： 火5

**担当教員： 須田 英一**

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-AR3-F425

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:34 更新者：gakubuadmin 更新日時：2023-01-25 13:58:27

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

埋蔵文化財（遺跡）行政のシステムとプロセスを、考古学研究との関わりにも触れながら学ぶ。また、埋蔵文化財（遺跡）の今後の展開と役割について考えてみたい。

**科目目的**

混沌とした現代社会の中で、遺跡(埋蔵文化財)は地域社会にうらおいを与えてくれる文化遺産の一つである。埋蔵文化財は、考古学だけではなく、地域教材として学校教育や生涯学習などの教育分野、景観の一つとしてまちづくりなどの都市計画分野や、地域アイデンティティーとしての地域社会との深いつながりなど、現代社会との関わりも深く、文化財行政は文化政策の中で大きな支脈を形成している。

遺跡を保護する行政研究を埋蔵文化財行政学と位置付け、この科目での学習を通じて、行政の基本的枠組みについて理解を深める。さらに考古学研究と埋蔵文化財との関わりにも言及するので、考古学と現代社会との関わりに対する認識を得ることを目的とする。

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「複眼的思考」を習得することを目的としている。

**到達目標**

この科目では、埋蔵文化財行政のシステムとプロセスを学ぶことを通じて、行政職員としての施策の進め方を把握し、埋蔵文化財を文化財の一つとして幅広く考えられるようになると共に、教育・都市計画・景観・まちづくりなど、現代社会との関わりの中で捉えられるようになることを到達目標とする。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス、文化財の体系と埋蔵文化財
- 第2回 埋蔵文化財と埋蔵文化財行政学 埋蔵文化財とは、埋蔵文化財専門職員に求められる能力
- 第3回 埋蔵文化財に関する制度・行政のシステム (1) 埋蔵文化財行政史
- 第4回 埋蔵文化財に関する制度・行政のシステム (2) 文化財保護法
- 第5回 埋蔵文化財行政のプロセス (1) 周知・予防：遺跡地区、埋蔵文化財包蔵地の把握・周知
- 第6回 埋蔵文化財行政のプロセス (2) 調整：開発事業者との事前協議
- 第7回 埋蔵文化財行政のプロセス (3) 調査①：緊急調査と記録保存
- 第8回 埋蔵文化財行政のプロセス (4) 調査②：発掘調査報告書
- 第9回 埋蔵文化財行政のプロセス (5) 調査③：発掘調査担当者の資格制度
- 第10回 埋蔵文化財行政のプロセス (6) 調査④：民間調査機関
- 第11回 埋蔵文化財行政のプロセス (7) 保存：遺跡の保存・整備
- 第12回 埋蔵文化財行政のプロセス (8) 活用：遺跡の活用、埋蔵文化財の普及
- 第13回 考古学研究と埋蔵文化財 パブリック・アーケオロジーの論点から
- 第14回 総括・まとめ 埋蔵文化財行政の今後の展開と役割

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

プライベートな時間に、近隣の埋蔵文化財センター・博物館などに足を運び、埋蔵文化財の活用事業にも参加してほしい。また、文化財や史跡などに関する新聞・雑誌記事や、テレビのニュース・特集番組などにも接し、講義内容の理解度を高めてほしい。

**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	定期試験は実施しない。中間・学期末の課題レポートを課す。その内容を基準とする。
平常点	40%	授業の受講態度の状況と、毎回のリアクションペーパーの内容を基準とする。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:両課題レポートを提出していない受講者は、F判定とするので、十分に注意すること。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

- ・1988年9月～1991年12月、慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室勤務、発掘調査担当者として発掘調査・整理作業に従事
- ・1994年4月～2010年3月、神奈川県三浦市教育委員会社会教育課文化財保護係勤務、文化財担当者として埋蔵文化財発掘調査・整理作業、資料館運営、公開・普及活動、庶務事務に従事
- ・2011年10月～2013年3月、慶應義塾大学矢上地区文化財調査室勤務、文化財担当者として整理作業に従事

### 実務経験に関連する授業内容

大学の調査研究機関、地方自治体の文化財行政の実務経験を通じ、埋蔵文化財行政に関する基本的な知識と運用、埋蔵文化財の保存と活用、公開・普及のあり方について講義する。

### テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布する。下記以外の参考文献については適宜紹介する。  
 稲田孝司『日本とフランスの遺跡保護』岩波書店、2014年 ISBN978-4-00-025974-3  
 須田英一『遺跡保護行政とその担い手』同成社、2014年 ISBN978-4-88621-676-2  
 土屋正臣『市民参加型調査が文化を変える』美学出版、2017年 ISBN978-4-902078-46-6  
 和田勝彦『遺跡保護の制度と行政』堂成社、2015年 ISBN978-4-88621-709-7

### オフィスアワー

### その他特記事項

講義では埋蔵文化財に関わる最新のニュースなどにも触れるので、必ずしもシラバス通りの進行にならない場合がある。考古学など歴史学を専攻として学芸員課程を履修している学生にとって、専攻と社会との関わりを考える絶好の機会になると思います。また、地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。

参考URL

備考

---

**科目名：考古学特講B****担当教員：黒尾 和久**

履修年度：2023 学期：後期

開講曜日時限：月2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：LE-AR3-F426

登録者：DA1410admi 登録日時：2022-10-28 09:41:34 更新者：AC7952

更新日時：2023-01-04 09:23:10

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

考古資料の性格、「遺跡」とは何か、発掘調査とはどのような行為なのかについて概説しつつ、考古学的思考は、具体的資料を介して、どのように接近するのか、現代から先史まで時代を遡りつつ理解してゆく。そのために、「考古資料論」について念頭におき、日本考古学の最も新しい領域となる「近現代考古学」や、中央大学文学部も所在する多摩地域の「集落遺跡」の調査事例を素材にとりあげて、概説する。

**科目目的**

考古資料の性格と人類史の復元に寄与する考古学的手法の役割とその積極性と限界や課題について理解し、考古学的思考とは何か、考える態度を身につける。

**到達目標**

あなたが、歴史・人類史を復元するための方法論としての考古学的手法や思考法について、考古資料の性格を踏まえながら、理解できるようになることをめざします。

(素材は、東京・多摩地域の発掘調査資料やそのあゆみから、現代から原始時代まで、時代を遡るように選択しています)。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス：考古資料論～「遺跡」とは何か 「遺跡」はどこにある
- 第2回 考古資料論～「遺」という言葉について、「遺産」について考える
- 第3回 近世・近代考古学の課題～江戸・東京を掘る：江戸東京博物館ジオラマにみる「0層」問題
- 第4回 近・現代考古学への視点～近現代陶磁器の変遷(震災・戦災考古学/ハンセン病療養所の調査)
- 第5回 多摩地域の古代・中世考古学～水田はいつから水田か? あきる野市砂沼谷戸の調査
- 第6回 多摩地域の古代・中世考古学～日野市落川・一の宮遺跡の調査
- 第7回 多摩地域の中世考古学～高幡高麗氏の足跡
- 第8回 多摩地域の中世考古学～立川氏館跡を掘る
- 第9回 多摩地域の中世考古学～戦国の終わりを告げた八王子城/再び「遺跡」について考える
- 第10回 弥生時代～古墳時代～卑弥呼の時代の雑穀栽培のムラ
- 第11回 「遺跡の範囲」の外(沖積低地)に眠る弥生集落について考える
- 第12回 縄文時代～縄文集落研究の現状と課題① 調査史と資料論
- 第13回 縄文時代～縄文集落研究の現状と課題② 展望と課題
- 第14回 まとめ～現代考古学の課題について

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |     |  |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0%  |  |
| 期末試験 | 0%  |  |
| レポート | 60% | 期末レポートを提出してもらいます。授業内容を踏まえていただき、自分の意見や理解したことなどを論じてもらい、その内容で評価いたします。 |

平常点 40% 各回の講義終了後に、授業に関して感想・質問・意見などを小レポートとして提出してもらいます。manaba  
を利用します。  
その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

日本考古学協会員 (日本考古学)  
主な発掘調査・報告実務経験：八王子市宇津木台遺跡群、調布市原山遺跡、日野市落川遺跡、同南広間地遺跡、立川市立川氏館  
跡、あきる野市前原・大上、砂沼、水草木遺跡、豊島区長崎並木遺跡、群馬県草津町重監房跡地など。  
市史編さん：田無市史、八王子市史、小金井市史、羽村市史、清瀬市史

### 実務経験に関連する授業内容

講師が、自らの発掘調査・報告経験を踏まえて、考えてきたことを中心に、話題提供をいたします。

### テキスト・参考文献等

とくに教科書は指定いたしません。  
講義の事前に適宜、manabaを通して資料を配布します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考